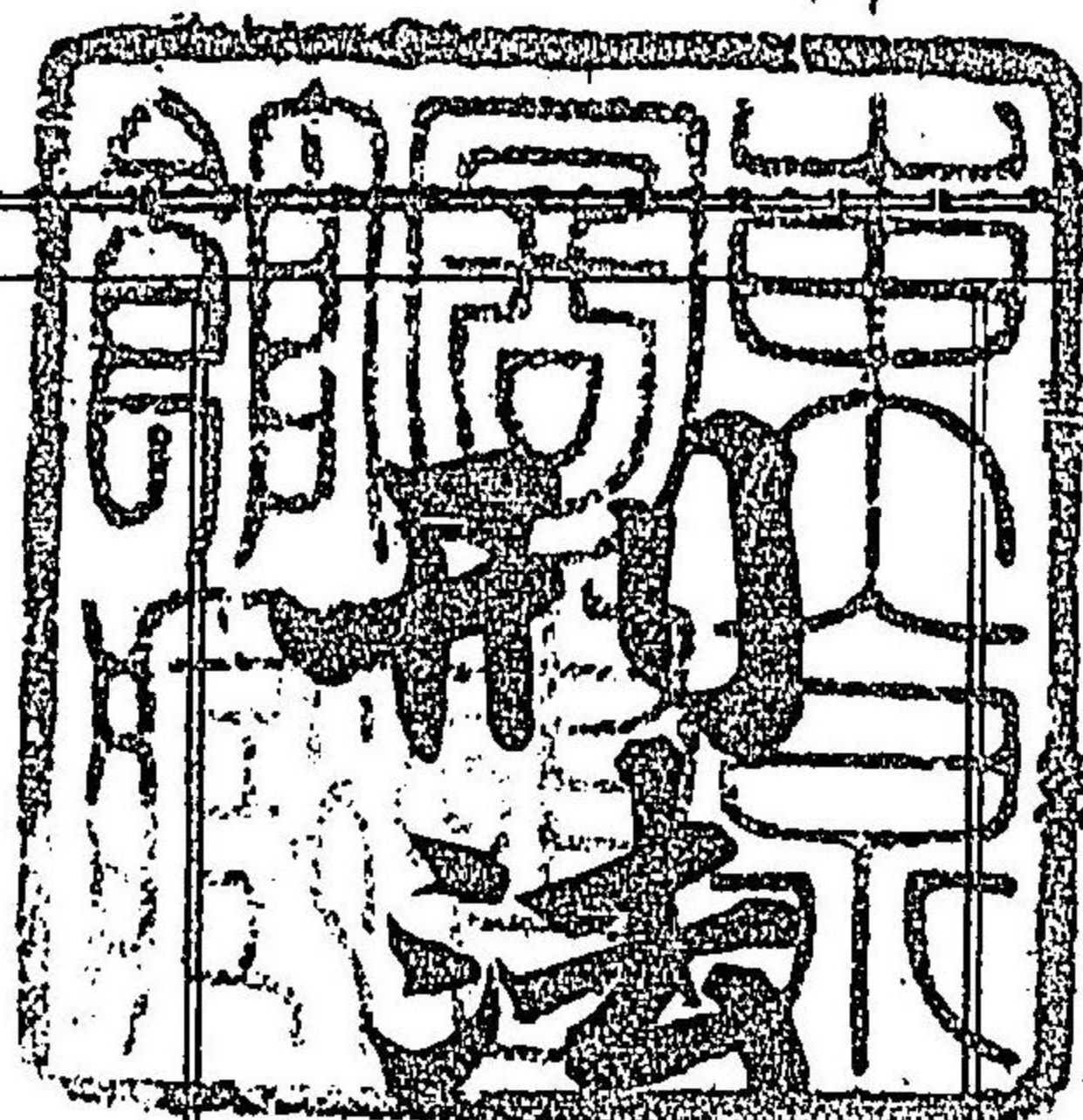


特15
942

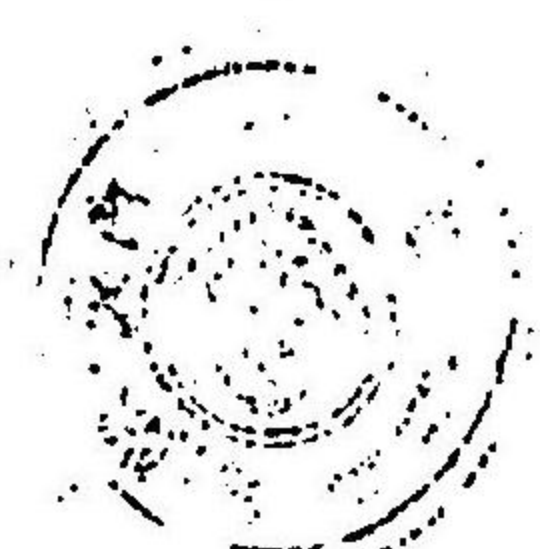
№16030



大審院刑事第一局長從四位勳三等 西岡逾明君題辭
 東京控訴院評定官從六位勳六等 木村喬一郎君序
 大審院評定官正六位 兒玉淳一郎君跋
 逸人 石塚源吉君編纂

執行便覽
全

明治二十二年三月出版





Two large, bold Chinese characters in cursive script (caoshu). The characters are '理' (lǐ) and '道' (dào), which together mean 'Tao' or 'the Way'. The characters are written with thick, expressive brushstrokes, showing a high level of skill and confidence. The '理' character is on the left, and the '道' character is on the right, both slanted slightly to the right.

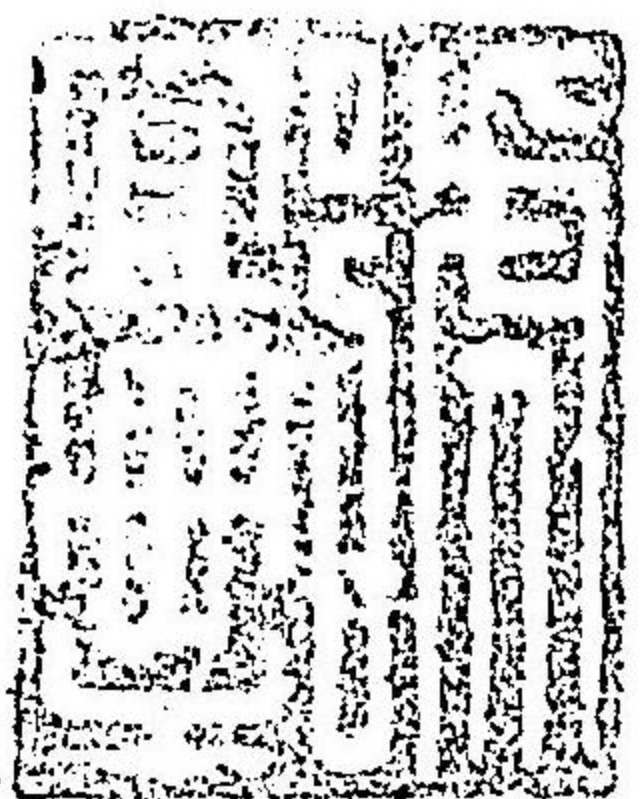
五

通

七

己丑初卷

西園逾明



刑法執行便覽序
有一定之法律無一定之犯罪
律條有限人情無窮欲以有限
之條應無窮之情執法之吏不
亦能乎雖然法律者規矩準繩
也人情者土木竹石也土木竹
石豈有一定之形乎有良匠焉
運其規矩準繩以適之無致之

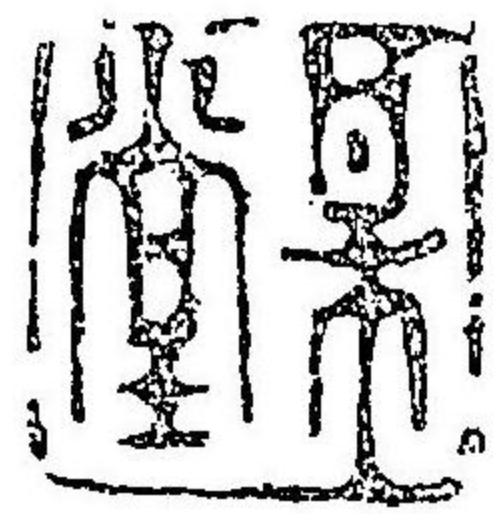
土木竹石綽手有餘裕矣吾
間良匠之家多藏宮殿樓閣
各方其構思造意必就斟酌
之萬間之屋尺寸臺榭其所
區畫規矩準繩不差毫釐不誤
尺寸何則曾有豫定之紀律也
石塚源吉君夙修法學頗極蘊
奧課業之暇採錄行移申章批

準問答等凡百係刑法者名曰
刑法執行便覽分門區部繁然
整備於宮室臺榭房序門扉之
製造結構然一在良匠圖畫中
也為法吏者坐置一冊每遭一
物案搜索點檢則獲良案如探
囊中物庶幾手不空規矩準繩
矣頃者携來示余求序余亦承

乏法官平生從事規矩準繩在
雖無良匠之能或足以知面畫
之為益矣不辭為之序

明治二十二年一月

木村高一郎撰



刑法執行便覽緒言

一本書ハ第一款ヨリ第十二款ニ區分シ刑法及同附則中刑ノ執行上必要ト
認ムル條項ヲ拔萃シ其條項ニ適切ナル公布公達伺指令内訓々示及問答
等明治十三年ヨリ本年本月ニ至ル迄ノ者ヲ撰ビ且治罪法及監獄則ニ係
ル者ニシテ本法ト連通スル所ノ者ハ勉メテ之ヲ掲載シタル者ナリ
一其主意ハ執行方法ノ實際生スル數多ノ困難ヲ簡便ニ判斷センカ爲メ執
務上參考ニ供センノスルニアリ
一本書ハ精密ノ注意ヲ加フルト雖モ力ヲノ足ラサル未タ誤謬欠漏ノ失ナ
キヲ保セス乞フ看官之ヲ恕セヨ

明治二十一年八月

編者識

明治三十二年六月十二日
法律第六十二號

刑部省
監獄司

監獄司

監獄司

監獄司

監獄司

刑法執行便覽

編纂者 石塚源吉

第壹款

刑法第壹編

第二章 第一節

第十三條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ

規則ヲ以テ之ヲ定ム

第貳款

第貳節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄

内ニ於テ之ヲ行フ

○茨城縣 十五年六月十二日何
指令

茨城重罪裁判所ノ儀ハ明治十四年公布ニ依リ管轄水戸土浦

ノ始審裁判所ニ於テ便宜開廳可相成ハ勿論ノ儀ニ候ハモ當
 縣監獄土浦支署ノ儀ハ未タ行刑場ノ設ケ之レナク且過多ノ
 地方費ヲ要スルニ付差懸リ築成モ相成兼差支ノ筋不勘候間
 若シ土浦始審裁判所ニ於テ開廳ニ相成同所ニ於テ死刑ノ言
 渡ヲ受ケタル被告人アリタル時ハ御省ヨリ執行ノ命令アラ
 サル以前監獄本署(縣廳ノ側)ノ監倉ニ移シ執行致シ可然哉
 前項若シ御聞届相成カタキ筋ニ候ハ、當分ノ内水戸始審
 所ニ於テ、廳相成ラサレハ實際差支ノ義有之ニ付御聞届
 相成度候

指令

前項同之通但裁判所ト協議ノ上ハ後項ノ通取計フモ妨ナシ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニテラサレハ之ヲ行フ

得テ得ス

○堺輕罪裁判所檢事 十五年三月二日
全年全月四日付 報

大審院ニ於テ舊法ニ依リ批可セシ死刑ハ刑法第十三條ニ依
 ラサル者ト心得候ヘ共爲念伺フ明日死刑ノ宣告有之ニ付至
 急御指令ヲ乞フ

指令

大審院ニ於テ批可セシ死刑執行ノ件ハ見込ノ通

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

○愛媛縣 十五年一月十六日伺
全年七月十七日内務省合議

第六條刑法第十四條並ニ刑法附則四條ニ死刑ヲ行フヲ禁
 スト有之候處裁判言渡ノ義ハ別段書載無之ニ付從前ノ規則
 ハ消滅セシ者ト心得違警罪裁判言渡ヲナシ可然哉

指令

第六條伺ノ通

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非レハ刑ヲ行ハス

○滋賀縣 十五年一月十七日
全年二月七日指令

第一條第十五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非レハ刑ヲ行ハストアリ其他禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ一百日ヲ待テ執行スルニ及ハサルヤ如何

指令

第一條何之通

(理由)第一條死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女云々右ハ死刑ニ該ル婦女ニ限リ分娩後百日ヲ待ニ非サレハ其刑ヲ行フヲ許サハルコトニ定メラレ他ノ刑ニ付テハ其禁ナシ即チ他ノ刑ハ百日ヲ待ツニ及ハス執行セシムル法律ノ主意ト考量候

○神奈川縣 十五年一月廿三日
全年二月廿八日付内務省合議

刑法第十五條ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニアラサレハ刑ヲ行ハストアリ就テハ無期徒刑以下刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ婦女タリト雖モ直ニ刑ヲ執行シ分娩後一百日間ノ健康ハ醫師ノ診斷ニ依リ就不就役爲致候儀歟

指令

何之通

○鹿兒島縣警部 十五年九月廿一日
全年十月廿七日内訓

刑法第十五條云々分娩後一百日ヲ經ルニアラサレハ刑ヲ行ハストアルハ偏ニ該兒乳養ノ爲メナル可ク考フ然ルニ分娩ノ後數日ニシテ該兒死スルカ又ハ臨月ニ至ラスシテ流産シタル時ハ一百日間行刑猶豫ハ要セサル歟

内訓

第一百ヲ待テ處分スルハ、
 第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請ス者アレバ之ヲ下付ス
 但式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス
 第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服
 ス

有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於
 テ定役ニ服ス

○石川縣 十六年二月十九日伺内務省 官告ニ於テ
 全年二月十四日指令
 刑法第十八條ニ徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場
 ニ於テ定役ニ服スト之アリ内地ノ懲役場トハ監獄前第一條
 第五項ニアル懲役場ヲ指シタル者ニ可有之哉果シテ然ラハ

第五十條ニ徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルハ其宣
 告書ノ謄書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ云々トアルモ婦女ニ限
 リ申報スルニ及ハサル儀ト心得可然哉

指令

懲役場トハ内地ノ集治監ヲ指ス婦女モ申報スルハ其宣
 第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ツル者ハ通常ノ定役ヲ免シ
 其体力相當ノ定役ニ服ス

○滋賀縣

十五年二月十七日伺
 同年二月七日指令

第二條刑法第十九條徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役
 ヲ免シ其体力相當ノ定役ニ服ストアリ本條ハ裁判官ノ宣告
 ヲ待タズ獄司限り處分スルヲ得ルヤ如何

指令

第二條獄司ノ處分ニ任スルハ其者ト心得ハシ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス

有期流刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ居住セシムルヲ得有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歲ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

○三重縣 十五年五月廿五日伺 全年六月一日付電報

昨年十一月管杖ノ刑ヲ受ケタル者ノ裁判不當ノ虞アルトシテ檢事上告シタルニ此節前裁判ハ破毀セストノ判決アリ

リ就テハ今日之レヲ管杖刑ニ處シ宜シキヤ又ハ懲役ニ換ヘ執行スヘキヤ否電信ニテ御指揮ヲ乞フ

指令

昨年中管杖ノ刑ヲ受ケタル者上告ノ上破毀セサル件右ハ懲役ニ處スヘキ儀ト心得ヘシ

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ定役ニ服シ輕禁錮ハ定役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

○三重縣 十四年八月十八日伺 全年全月三十日指令

本縣ニ於テハ從來獄舎狹隘ナルヲ以テ悉ク懲役人ヲ容ル

未得サニ付嘗テ經伺ノ上懲役百元以下ノ囚人ハ笞杖打決
 致處分來リ候ヘ共新法實施ノ日ハ其本刑ニ處セラル、ヲ以
 テ笞杖ニ換ヘ決行スルカ如キハ斷然廢止ノ御趣意ニ有之哉
 指令
 伺之通

(理由)懲役百元以下ノ囚人ハ獄舎狹隘悉ク之ヲ容ル、ニ足
 ラサルヲ以テ經伺ノ上從來笞杖打決スルト雖モ新刑法笞
 杖ニ換フルヲ許サ、ルヲ以テ其實施ノ日ハ必ス本刑ニ處
 スヘキ者ト考量ス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ
 其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分 囚人ニ給與ス但現役
 百日以内ハ給與ノ限ニ在ラス

〇三三 重縣 十五年二月十八日伺
 全年七月十七日指令内務大臣連帶 宣

刑法第二十五條ニ曰ク定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規
 則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス
 但現役百日以内ハ給與ノ限ニアラスト而テ昨十四年五月御
 省乙第二十七號達地方稅豫算及精算順序第四條第六節ニ依
 レハ雜收入ノ目ニ於テハ云々懲役人傭工錢滿期付與金ヲ引去
 タルモハ云フ等ヲ
 編入シ一般ノ地方費ニ支出スヘシト之レアリ右御達ハ懲役
 人ノ傭工錢ノ支出方ヲ掲ケラレタリト雖モ同ク定役ニ
 服スル囚人ノ工錢ニ外ナラス前顯刑法第二十五條ノ明文ニ
 ヨレハ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供スヘキ者ニシテ御達ノ支出
 方ト相異ナルカ如キヲ覺ユ右ハ如何相心得可然乎

指令

一旦地方稅ハ受ケ入レタル上刑法第二十五條ニ依リ可取計

四 參照

内務省

十年五月十二日
同年六月廿一日指令

囚徒工錢處分方ノ義ニ付テハ別紙^(略)ノ通彙ニ御指令ノ次第モ有之候處刑法御實施ノ今日ニ在テハ無論司法第廿五條ニ從フヘキモノト存候得共右收入工錢ヲ以テ直ニ監獄ノ費用ニ充候テハ出納上ノ順序相立サルノミナラス衣食費等ノ如キハ豫メ整備シ置カサルヲ得ス旁以テ其收入工錢ヲ地方稅雜收入ニ組入而テ一般ノ地方費ニ支出候様取計度候

指令

一旦地方稅へ受ケ入タル上刑法第廿五條ニ據リ仕拂フヘシ

○内務省 十五年十二月十四日照會
十六年一月九日 回答

定役ニ服スル囚人工錢給與ノ儀ニ付刑法第二十五條但書ニ現役百日以内ハ給與ノ限ニアラストアリ附則第十八條ニ後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セストアリ然リ而シテ刑ノ

執行ハ刑法第九十五條ニ依ラサルヲ得ス今茲ニ一囚アリ前犯服役限内ヲ經過スル儘ニ數日間ニ在テ更ニ罪ヲ犯シ前犯ヨリ重キ時ハ其重キ後犯ヲ執行シ附則ニ從ヒ期限百日ヲ經過セハ工錢ヲ給與シ得ヘシ其後前犯ノ刑ヲ執行スル日ニ於テ前日經過シタル日數ヲ合セ現役百日ヲ經サレハ工錢ヲ給與セサルモノトセハ使役上頗ル權衡ヲ失ヒ不都合不少有ハ如何ノ旨趣ニ候哉往々伺出候向モ有之候間一應及御問合候至急御答有之度候也

回答

定役ニ服スル囚人工錢給與ノ儀ニ付客年十二月十四日付御照會之趣了承右ハ囚人ヲ定役ニ服セシムルニ付テハ官ノ費用モ不少ニ付キ百日以内ハ工錢ヲ給與セサル儀ニ之アルヘク已ニ一ノ刑ヲ執行スルニ付百日以内ハ給與セサルモノト

定メタル上ハ御照會ノ例之如キモ前犯ノ剩餘ヲ刑ヲ執行スル時ハ亦前ニ經過シタル日數ヲ合セ百日以内ハ給與セサル
ト當然カト相考候此段及御回答候也

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ

一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

○青森縣警部 十四年十一月七日質問
全年十二月六日回答

第六條違警犯處分ニ付警察分署ニ於テ其未タ拘留所ノ設ケ

ナキ向ハ拘留ノ心得ヲ以テ其署適宜ノ一室内ニ留置シ候テ

可然哉

回答

違警罪拘留ノ刑ニ處スルモ御見込ノ通リ

第三節

第三十一條

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

一國民ノ特權

二官吏ト爲ルノ權

三勳章年金位記貴號恩給ヲ有スルノ權

四外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

五兵籍ニ入ルノ權

六裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ

此限ニ在ラス

七後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニス

ルハ此限ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理ス

ルノ權

九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

○十五年三月六日司法省丙第九號達
大審院裁判所府縣(東京府ヲ除ク)

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタル時
ハ其罪狀並刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省ヘ可届出此旨相達候
事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章並年金票共收奪ノ上當省ヘ差
出可ク候事

○十五年四月十七日司法省
丙第十六號達

褒章條例第四條ニ依リ褒章ヲ沒收ス可キ場合ニ於テハ本年
三月當省丙第九號達ニ照準シ處分ス可シ此旨相達候事

○姫路始審廳

十四年十二月三日請訓
十五年十一月十九日指令

第三十一條第一項國民ノ特權トハ府縣區町村會ノ撰學及ビ
國字ヲ以テ記スル新聞雜誌ノ記者トナリ或ハ土地ヲ所有ス
ル等ノ諸權ヲ云フ歟

第三項貴號トハ皇族華士族或ハ内國政府又ハ官立學校等ヨ
リ授與スル所ノ學位博士或ハ學士ヲ指稱スル者ナリヤ
指令

第三十條府縣區町村會ノ撰學被撰學權ハ國民ノ特權ニ屬ス
ト雖モ新聞記者トナリ或ハ土地ヲ所有スル權ノ如キハ此限
ニアラス
皇族華士族ノ稱號貴號ニ屬スト雖モ博士學士等ハ此限ニア
ラス

○新潟裁判所新發田支廳檢事

十四年九月七日請訓
十五年四月廿五日内訓

第四條刑法及ヒ治罪法中公權剝奪者通事トナルノ權ハ敢テ
禁止無之候得共若シ聲者啞者ニシテ文字ヲ知ラサル者等ニ
用フル通事ノ儀ハ假令公權剝奪ヲ受ル者ト雖モ之ヲ行フノ
權ヲ有スルモノト相心得可然哉

指令

第四條公權剝奪ヲ受ケタル者通事ト爲ルルハ治罪法第百九十五條ニ準シテ處分スルヲ得

○京都府

十五年二月廿五日
同年三月十五日指令

第一條重罪輕罪ノ刑ヲ犯シ公權ヲ剝奪シ又ハ公權ヲ停止セラレタルモノハ治罪法第百八十二條ノ明文ニ因リ證人タルヲ得可カラサルハ勿論ノ儀ニ有之然ルニ公權ヲ剝奪シ又ハ公權ヲ停止セラレタル者ニシテ裁判所構内人民控所其他ニ於テ民事刑事ノ訴訟代書ヲ爲スハ官廳人民共之ニ信ヲ置クモノナレハ證人トハ異ナルヲ以テ差支無之儀ト心得可然哉

指令

第一條伺之通

(理由)刑事民事ノ訴訟代書ノ件刑法第十一條國民ノ特權トアルハ徒ニ撰舉被撰舉者ノミナラス代書師代書人等ナルノ權ヲモ包含シタル者トス然ルニ方今代書人ト稱シ裁判所ノ内外ニ於テ訴訟人ノ爲ニ代テ訴訟ヲ記スル者ハ西洋諸國ノ代書師ナルモノト違ヒ國民ノ特權トモ稱スヘカラサルモノト思惟セリ故ニ刑餘ノ者右等ノ所爲ヲ爲スモ何ノ通ニテ差支無之儀ト考量ス

○檢事代理福井縣警部

十五年七月十八日
同年八月十九日指令

刑法第三十一條第一項國民ノ特權トハ現今ハ府縣會郡區會町村會ノ議員又ハ戸長學務委員衛生委員等ニ撰舉セラレ又ハ撰舉スルノ權或ハ免許代言人トナルノ者ヲ云フカ
右官吏トハ准官吏モ含有スルカ

指令

伺之趣戸長ハ准官吏ノ部中ニ入り衛生委員代言人トナルノ
權ハ特權中ニ包含セス其他伺ノ通

○鹿兒島縣警部

十五年九月廿一日請訓
全年十月廿七日内訓

第五條刑法第三十一條第三貴號即チ華士族ノ族藉ヲ剝奪セ
ラレタル場合ニ於テハ舊法ノ如ク其族ハ子孫ニ嗣カシムル
歟將又其者戸主ナルルハ家人共ニ平民トナル歟

内訓

第五條前段見込ノ通

第六條右同條第四ノ外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權ハ日本國內
ニ於テノミ剝奪セラレタル義ナル歟又ハ外國ニ於テモ同様
ナル歟草按ニハ(日本國內ニ於テ)ノ明文アリ刑法ニナシ疑義不少候

内訓

第六條前段見込ノ通り

明治十九年七月一日
閣令第十九號 各官廳

明治十六年九月第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ
改正スルコト左ノ如シ

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚
辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニ

ヨル

第二項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官セラレタル者

第四項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタルトキハ裁

判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告寫書ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第三條 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ナルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス
第五條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ

シ作リ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム
第六條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第七條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告寫書ヲ添フベシ
第八條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタル下キハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ
但公訴權消滅シタルトキ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタル

トキハ亦其事情ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第九條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第十條 外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

○新潟裁判所新發田支廳檢事十四年九月七日請訓
十五年四月廿五日內訓

第五條公權停止ヲ蒙リタル者ニシテ勳章ヲ所有スル者ナル時ハ其勳章ハ沒收スヘキモノニ候哉果シテ然ラハ解停ノ時ニ當リテハ現任官職ト等シク勳章ヲ有スルノ權ハ將來ニ而已回復スルコトニシテ現任有セシ勳章ハ犯罪ニ從リ消滅セシ

モノト相心得可然哉

內訓

第五條公權ヲ停止スルニ止リ其勳章ヲ沒收スルコトヲ得ス

(理由)公權ノ停止ハ期限間ニ限ル刑期滿限若クハ其他ノ原由ニ因リ本刑消滅シタル時ハ直ニ回復スル者ナリ而シテ勳章ヲ有シ及ヒ佩用ノ權ハ現任ノ官職ト異ニシテ又一時ノ停止ニスギズ依テ刑法上其勳章消滅シタルモノトシテ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス

○陸軍省 十五年五月廿五日問合
全年六月三日回答

罰金ニ處セラレ限内納完セサルヲ以テ刑法第二十七條ニ依リ禁錮ニ換ヘ處分セラレタル者ト雖モ第三十三條ニ從ヒ現

任ノ官職ヲ失フノ例ナルヤ御省ニ於テ御取扱振承知致度此
段及御問合候也

回答

五月廿五日附テ以テ罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者處分ノ件ニ付
御問合ノ趣了承右ハ是迄本省ニ於テ別段慣例無之候得共罰
金ヲ納完セサルニ因リ禁錮ニ換ヘタル者ハ初メヨリ禁錮ニ
處セラレタル者トハ自カラ區別アルニ付刑法第三十三條ヲ
適用スヘカラサル儀ト思考致候此段及御回答候也

○山梨縣

十五年五月十九日伺
全年六月七日指令

刑法第三十三條輕禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒ
ス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止スト
有之右官職トハ官吏及准官吏(等内)ニ限ル義ニ候哉又ハ町村
ノ學務委員衛生委員及ヒ戸長ニ附屬スル書役等ノ如キ種々

人名義ヲ以テ苟モ公務ニ從事スルモノヲモ凡テ包含スル義
ニ候哉

指令

前段伺之通

○鹿兒島縣警部

十九年九月廿一日請訓
全年十月廿七日内訓

第七條同第三十三條第三十四條ヲ適用セラレヘキモ人貴號
ヲ有スル時ハ其刑期間之ヲ停止スルノ方法ハ止々其姓名ノ
肩書ニ記號ヲ記シ又ハ公稱ヲ禁スルノ儀ニ候哉

内訓

第七條公稱スルノハ之ヲ許スト雖モ貴號ヲ以テノ利益ハ之
ヲ受ルヲ得ス

○浦和輕罪裁判所檢事

十六年二月二十四日質問
全年一月二十九日回答

官吏タル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其言渡ニ對

シ不服ヲ爲シ上告スルモ現任ノ官職ハ自然失ヒタルモノナ
ルヤ將タ其上告ノ判決アル迄ハ其職ハ失ハサルヘキ哉

回答

官吏罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者處分ニ付御質
問ノ趣右ハ後段御意見ノ通ニテ可然ト考量ス但行政上ノ處
分ハ格別ナルヘシ

○三重縣 十六年二月十二日司
全年三月八日指令

刑法第三十二條第三十五條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ
別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス其ノ主刑ノ終ルマテ自
カラ財産ヲ治ムルヲ禁ストアリ刑法第三十三條ニ禁錮ニ
處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ
其刑期間公權ヲ行フヲ停止ストアリ右ハ重罪若クハ輕罪
ノ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケルノ日ヨリ其附加刑ニ處セラレ且

現任ノ職官ヲ失ヒタル者ナリ而シテ現任ノ官職ヲ失フヲ除ク
ノ外其附加刑ヲ執行スルハ刑法第五十條ニ依リ上訴期限ヲ
輕盡シテ確定シタル後ニ執行スルハ論ヲ俟タス然ルニ其上
訴中ハ果シテ前裁判人如ク處刑セラレ、ヤ否ノ其一左一右ニ
至テハ未タ確定セサルノ間ナリ此間ニ於テハ公權ヲ行ヒ若
クハ財産ヲ治ムルヲ得ヘキ人トモ言ヒ難ク又其得ヘカラサ
ル人モ言ヒ難キニ似タリト雖モ一日前顯ノ刑ノ言渡ヲ受ケ
タル上ハ其宣告ノ日ヨリ上訴期限ヲ經過スル迄ノ間又ハ上
訴アリタル時ハ其裁判確定スルノ日迄ノ間ハ身體ノ監倉ニ
拘束セラレ、ト保釋ヲ受ケルトニ拘ハラス素ヨリ官吏證人
分散者ノ管財人等ト爲リテ即チ公權ヲ行ヒ又ハ財産ノ賣買
贈遺等ヲ爲シテ即チ財産ヲ治ル儀ハ不相成儀ト心得可然哉

指令

伺之趣治罪法第百八十二條ニ依リ證人ト爲ルコトヲ得ス及
ヒ縣會議員ト爲リシ者ハ保釋ヲ受ケタル時ト雖モ議場ニ出
席スルコトヲ得サル條件ヲ除クノ外刑法第三十一條ニ記列ス
ル公權ハ裁判言渡アリタルモ未タ確定セサル間ハ之レヲ剝
奪又ハ停止スルノ限ニアラス但同條第二第九ノ場合ハ行政
上ノ處分ヲ以テ免職スルハ妨ナシ

(理由)右審按候處刑法第五十條ニ依レハ行政ノ都合ヲ以テ
官吏及ヒ教員等ノ職務ヲ罷ムルカ治罪法第百八十二條ヲ
以テ證人トナルコトヲ禁シタル外ハ未タ其刑ノ確定セサル
間ハ其刑ヲ執行スルヲ得サルヲ以テ爾餘ノ權ハ之ヲ行フ
コトヲ得ル儀ト考量候然ルニ別紙參照太政官ノ御指令ニ依
レハ縣會議員ハ保釋中ト雖モ議場ニ出席スルヲ得サルニ
付右之通

○石川縣

十五年九月十六日伺
全年十月二十三日電報

縣會議員犯罪有之拘留又ハ保釋シタル未決中ノ者ハ縣會ニ
臨場不相成哉

指令

縣會議員拘留保釋中トモ議場出席ノ儀ハ不相成儀ト心得ハ
シ(内務卿
協議)

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告
ヲ用ヒス監視ノ期間間公權ヲ行フコトヲ停止ス
主刑ヲ免シ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒ
ス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス

○大坂府

十五年三月四日伺
全年全月廿八日指令

刑法第三十五條ニ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告

ヲ用ヒス其主刑ノ終リタル迄自ラ財産ヲ治ムルヲ禁スト
有之右受刑者ノ管財人タルモノハ追テ民法御制定ノ上分明
可致儀ニ可有之候ヘ共差向キ刑法第三十一條ノ附加刑ニ處
セラレタルモノヲ除クノ外何人ニテモ受刑者ノ撰定ニ任ス
ル乎將タ親屬ノ評議決定ニ委スルカ若シ受刑者指名ノ者ナ
ク親屬亦ハ評議ニ與ル者ナキ場合ニ於テハ慣例ニヨリ郡區
役所ニ於テ管財ヲ負擔スヘキモノナルヤ法律上明文無之ニ
付相伺候條至急何分ノ御指令ヲ仰キ候也

指令

親屬會議ノ評決ニ任カセ若シ其會議ニ與ル親屬ナキ時ハ見
込ノ通

○靜岡縣

十五年四月五日伺
全年全月廿一日指令

第一條在監人(未決者ヲ除ク)ヨリ自己所有ノ動産不動産ヲ典賣又ハ公

訴私訴ニ關シ親族朋友ヘ代人委任狀差出度旨願出候節ハ刑
法第二章第三節附加刑處分ニ抵觸サル分ハ都テ委任狀爲差
出可然哉

指令

第一條伺之通

第二條未決者同斷ノ節ハ豫審判事又ハ檢事ニテ差支無之ニ
於テハ委任狀爲差出可然哉

指令

第二條伺之通

第三條前條々ノ委任狀ハ證券界紙ヲ相用可申處該紙購求ノ
所持金無之モノハ白紙ヲ爲相用可然哉

指令

第三條證券界紙ヲ用ユヘシ

第四條在監人私訴ノ被告人トナリ答辨書可差出節ハ訴訟用
界紙相用可然處該紙購求ノ所持金無之モノハ白紙爲相用可
然哉

指令

第四條 明治十四年第六十七號布告刑法附則第六十一條ニ
從ヒ刑事裁判所ニ於テハ訴訟用界紙ヲ用ユルニ及ハス民事
裁判所ニ於テハ必ス之ヲ用ユヘシ

○宮城集治監

十七年六月廿五日同司法卿連署
十八年六月十八日指令

一監獄則第十四條第二項ニ若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ
扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ストア
リ

重罪ノ刑ニ處セラレ刑法ノ明文ニテ治産ヲ禁セラレタル
モノト雖モ前項監獄則ノ明文ニ由リ領置ノ貨物ハ自由ニ

スルヲ許サレタルモノナリ然レハ入監者他人ニ預ケタ
ル貨物又ハ貸與シタル貨物アル者ニシテ親屬故舊其他管
財スヘキモノナク又依頼スヘキ者ナキ片之ヲ取戻シ官ニ
領置又ハ正當ノ費用ニ充ント請フトモノハ許シテ差支ナキ
ヤ

一重罪ノ刑ニ處セラレ治罪ヲ禁セラレタル者處刑後財産管
理人ヲ定ムル爲メ他人ニ對シ委任狀ヲ差立テサセ差支ハ
ナキヤ

指令

第一項難聞屆

但管理スヘキモノナキ片ハ其戸長ニ管理セシメ他日賣買
貸借等ノ事アル片ハ都テ管轄裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘ
シ

第二項委任狀ヲ出サシムルモノニ非ス

但管理人ヲ定ムルハ其特別者ヲシテ其家族又ハ親戚ノ内ニ就テ撰定セシメ其氏名ヲ管轄裁判所ニ届出置他日賣買貸借等ノ事アル片ハ前項但書ノ通

第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラシタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得

第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑ノ短期三分ノ一二等シキ時間監視ニ付ス

○青森縣 十四年十一月十日
十五年一月十二日指令

第二條刑法ニ依リ重罪輕罪ノ刑ニ附加セラレタル監視ノ犯人ハ主刑滿期ノ日其地方警察官ニ交付スヘキ儀ニ候哉右交付手續ハ追テ御達ニモ可相成哉

但犯人法律ニ定メアル期滿免除ヲ得但監視ニ付セラレタ

ル者ハ直ニ其裁判所ヨリ警察官ニ交付セラレ儀ニ候哉

指令

第二條明治十四年第六十七號公布ノ通

○新潟裁判所新發田支廳檢事 十四年九月七日請訓
十五年四月廿七日内訓

第十條刑法第六十九條輕懲役ニ該ル者輕減ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スト有之此場合ニ於テハ重罪ニ附加スル公權剝奪監視治産ノ禁等ハ勿論免レタルモノニシテ只輕罪ニ附加スル停止公權ハ宣告ヲ用ヒス之ヲ附加シ監視ハ各本條殊ニ記載スル(例ハ第二百九條ニ稱ル所爲アル者輕減シテ輕罪ニ入ルト雖モ第二百十二條ノ明文ニ依リ監視ニ付シ第二百四十條ニ揭クル者輕減ニ依リ輕罪ニ處スル場合ト雖モ第二編第五章第一節ニ監視ニ付スルノ明文ナキヲ以テ之ヲ免ルノ類)ナキモノハ自然監視ハ免カレタル者ト相心得可然哉

内訓

第十條見解ノ通

(理由)輕懲役ニ該ル者減輕スヘキ時ハ重禁錮ニ處ス重禁錮
ハ重罪ノ刑ニ附加スル者ハ第三十三條以下ニ定ムル所ニ
從フ可シ

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本
條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

○茨城縣

十五年五月三十日請訓
全年六月十三日内訓

監視ニ付スヘキ罪(竊盜)ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ該ルヘキモノ禁錮
ヲ減輕シテ拘留ニ處シタル片ハ監視ヲ附加スルモノニ可有
之哉甲ノ裁判所ハ刑法第三百七十六條ニ依リ監視ニ付シ乙
ノ裁判所之レヲ附加セス兩岐ノ公判ニ涉リ疑團ヲ生シ候條
此段請内訓候也

内訓

請訓ノ趣拘留ノ刑ニ處セラレタル者ニハ監視ヲ附加セサル

儀ト心得ヘシ

○秋田始審廳檢事

十五年四月十八日請訓
全年七月廿四日内訓

第四條刑法第七十四條附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ云々
トアリ附加ノ監視ハ加減スルノ明文ナキニ付重罪ヨリ輕減
シタル者ハ刑法第二百九十一條第三百八十四條等ノ明文ア
ルノ外ハ重罪ヨリ輕減シテ輕罪トナシタル片監視ヲ附セザ
ルノ律意ニシテ又ハ輕罪ニシテ監視ヲ附スルモ監視ハ加減
セサル儀ト相心得可然哉

内訓

第四條何ノ通但輕罪ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ノ刑ヲ科スル時
ハ監視ヲ附加スルヲ得ス

(理由)刑法第三十八條ニ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ云々ト
アリテ違警罪ニ附スルノ明文ナキニヨリ違警罪ノ刑ニ處

スル時ハ總テ監視ヲ附加セサル律意ナルヲ徴スルニ足レ

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ
宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付ス

○新潟裁判所新發田支廳檢事

十四年九月七日請訓
十五年四月廿五日內訓

第六條刑法第三十九條死刑無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ
別ニ宣告ヲ用ヒス五年間監視ニ付シ其捕ニ就キタル時ヨリ
起算スル旨記載有之第四十條ニ於テ主刑ヲ免シテ止タ監視
ニ付シタル片ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算スト有之而シテ兩
條共ニ特赦ニ依テ刑ヲ全免スル場合ニ於テハ如何ナル性質
ノ犯罪ト雖モ監視ニ付セサルモノ、如ク相見ヘ候得共特赦
全免ノ場合ニ於テハ無論監視モ免レタルモノト相心得可然
哉

內訓

第六條監視ノ免否ハ特赦狀ノ明文ニ從フモノトス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑
ノ期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス若
シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日
ヨリ起算ス

○長崎上等裁判所檢事

十四年二月廿一日伺
十五年三月廿八日指令

第二條第四十條刑期滿限ノ日ハ未タ主刑ノ終ラサル日ナル
ヲ以テ本條主刑ノ終リタル日トハ刑期滿限ノ翌日即チ放免
ノ日ヲ云フモノト心得ヘキ乎

指令

第二條伺之通

(理由)刑法第四十九條第二項ニ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス

一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セストアリ因テ第四十條ニ監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ストアルハ刑期滿限ノ翌日即チ放免ノ日ヲ云フ

○警視總監

十六年三月十四日何
全年三月廿七日指令

刑法第五十一條第一款犯人自カラ上訴シテ其上訴正當ナル
并及第二款檢察官上訴ノ場合ニ係ル刑期計算法ハ例ヘハ爰
ニ十六年三月一日重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ處セラレタル
犯罪事件ニ付キ上訴ヲ爲シ八月一日更ニ重禁錮一ヶ月監視
六ヶ月ニ處セラレタル并ハ前件宣告ノ日即チ三月一日ヨリ
刑期ヲ起算スル儀ニ可有之因テ其監視ハ刑法第四十條第一
項ニ據リ主刑ノ終リタル日即チ三月三十一日(滯獄中)ヨリ起算
シ執行致來リ候且又客年十月三日内務卿ヘ監視中ノ者嫌疑
ノ廉ヲ以テ檢事ヘ引渡シタル未豫審廳ニ於テ免訴ノ言渡ヲ

受ケタル并ハ滯獄日數即チ警察署ヘ引致ノ當日ヨリ免訴ノ
言渡ヲ受ケタル日マテヲ監視限内ヘ算入可致哉ノ伺ニ伺之
通ト指令相成候ニ付旁前願ノ如ク確信致居候處本年一月八
日宇和島輕罪裁判所ヨリ御省ヘ重禁錮三ヶ月監視六ヶ月ニ
處セラレタル犯罪事件ニ付檢事ヨリ上告ニ及ヒ大審院ニ於
テ上告棄却シ上告中主刑滿限トナリタル場合ニ於テ監視日
數起算方向ハ出監ノ日ヨリ起算スヘキモノトスト御指令有
之候ニ付疑義相生シ候條至急何分ノ仰御指令候也

指令

伺之趣拘留中ノ日數ヲ主刑期限ニ算入スヘキ場合ハ附加刑
ナルニ監視ノ刑限ニモ亦算入スル義ト心得ヘシ

但シ本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

第四十一條 監視ニ付セラレタル者監視其情狀ニ因リ行政

ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得

○松江輕罪廳檢事

十五年四月十八日伺
全年六月十二日指令

第三條假出獄免幽閉免監視ハ行政ノ處分ナリト雖モ其刑ノ
言渡ヲ爲シタル輕罪裁判所(又重罪裁判所ヲ開キタル地ノ輕罪裁判所)又ハ其刑ヲ執行ス
ル地ヲ管轄スル輕罪裁判所檢察官ニ於テハ之ヲ知ラサレハ
不都合ノ場合ナキニ非ス然レモ法律規則中明文ナキヲ以テ
之ヲ知ルニ道ナキヤ

指令

第三條追テ何分ノ達アル迄ハ伺ノ通

(理由)行政官ヨリ檢察官ニ通牒ス可シト一般ニ御達アル可
キ者ト考量ス

第四款

刑法第二章

第五節

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ
以テシ一月トス稱ルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆
ニ從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期
ニ算入セス

○大分縣

十四年十一月十日伺
全年十二月六日指令

第一條來ル十五年一月一日ヨリ新刑法ニ依リ處斷相成リタ
ル定役ニ服スル已決囚病ニ罹リ休役スル日數ハ限内ニ算入
スル儀ト相心得可然哉

指令

第一條伺之通

(理由)舊律例第五十條ニ償役ノ法アルモ新法ニハ明條ナ

ケレハ其日數ハ限内ニ算入シテ可然ト考量ス

第二條舊律ニ依リ處斷相成タル懲役人ノ休役スル日數(十五年
一月一
日以
後)ハ例第五十條ニ拘ハラス前條ニ準シ取扱可然哉果シテ
然レハ本年以前ニ在リテ已ニ休役シタル者モ刑名宣告ノ日
ヨリ起算シ償役セシメスシテ可然哉

指令

第二條現行律ニ依リ處斷シタル者ノ休役日數ハ本年限リ改
定律例第五十條ニ照シ償役セシメ十五年一月一日以後ノ休
役日數ハ償役セシメサル儀ト心得ヘシ

○姫路始審裁判所判事 十四年十二月二日請訓
十五年一月十九日内訓

第四十九條受刑ノ日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ云々トア
ルハ二日以上ノ刑ニ適用スル者ニシテ例ハ對審裁判ニ依
リ一日ノ拘留ニ處セラレタル者アラシニ上訴期限ヲ經過ス

ルハ後執行ノ爲メ喚徴シタル處出頭セサルヲ以テ檢事ハ巡
査ヲシテ之ヲ引致セシメタルニ某日午前十時ニ引致シタル
ニ因リ直ニ刑ヲ執行シタル場合ノ如キハ本條ニ一日ト稱ス
ルハ二十四時ヲ以テシトアルニ依リ夜中ニ係ルモ翌日午前
十時ニ放免スヘキ者ナリヤ或ハ夜中ニ係ルモ別ニ監護ノ
法アリヤ

内訓

第四十九條本條第二項ハ一日ノ刑ニ該ル者ニモ亦之ヲ適用
ス但放免ハ監獄則第三十一條ノ通

(理由) 初日トハ次日ニ對スル語ナルカ如シト雖モ一日刑
ニ處スル者モ亦時間ヲ論セス一日ニ算入セサル可ラス何
トナレハ二日以上ノ刑ニ處セラル、者ハ利益ヲ得テ一日
ノ刑ニ處セラル、者ノミ利益ヲ得サルノ理非サレハナリ

○福島縣 十五年二月三日
全年二月十三日指令

第一條舊刑法受刑現存懲役人ノ中刑期一年以上ノモノニシテ病ノ爲メ昨年中五十日以上ノ休役スルモノアリ改定律例第五十條ニ依リ其五十日ハ限内ニ算入スヘキモ其以上若干ノ日數ハ之ヲ償ハシムヘキ等ノ處荏苒病ヒ癒ヘス爲ニ償フ能ハスシテ本年ニ超タリ然ルニ新法定役ニ服スル囚徒若シ罹病休役スルモノハ唯其刑期間囚禁スルニ止リ償役セシムル例ニアラス由之觀之前項懲役ノ如キモ本年ニ越シタル償役日數ヲ拘禁スルニ止リ現役ヲ以テ償ハシムル限ニ非サルヘキ哉

第二條前條若シ現行ヲ以テ償ハシムヘキ義ナル時ハ終ニ不治ノ痼疾ニ陥ルモノ、如キハ到底償フ能ハサルニ付是等ハ如何處分可致乎

指令

第一條第二條疾病ニ因リ曠役ノ日數ハ總テ刑期ニ算入シ償役セシムルノ限ニアラス

○東京集治監 十五年二月二十日伺

當監懲役人千葉縣下上總國山邊郡宿村平民三年刑大塚米太郎儀去ル十二年十一月一日病氣重症ニ陥リ責付申付置候處今般新刑法御實施ニ付歸監申達候處長病ノ余勢當今ニ至リ候テハ身体屈曲モ意ノ如クナラス加之病勢漸ク相加リ頗ル勞憊ヲ來タシ候ニ付遠程運行候時ハ病症ニ差障リ可申ニ付暫ク歸監猶豫相成度旨再三及歎願候次第ニ有之處本人儀ハ來ル二十八日刑期滿限ニ付若シ限内迄ニ歸監不致時ハ其儘放免取計可然哉

○内務省ヨリ照會 十五年二月廿五日
同年三月七日回答

責付ノ囚徒刑期満限ニ至ルモノ處分方ノ儀東京集治監ヨリ別紙ノ通り伺出候處右ハ本年一月以後ノ日數ハ更ニ服役セシムル筋ト存候得共御主管ノ件ニ付此段及御照會候

回答

責付ノ囚徒刑期満限ニ至ル者處分方ノ儀ニ付當省ノ意見御問合ノ趣了承致候右ハ本年一月一日前後ヲ論セズ責付中ノ日數ハ限内ニ算入セサル儀ト考量致候此段及御回答候也

○茨城縣

十五年三月十五日伺
全年全月廿八日指令

刑期ヲ計算スルニ本刑二日以上ナルルハ刑法第四十九條第二項ニ據ルヘキハ勿論ニ候得共茲ニ拘留一日ノ宣告ヲ受ケタル犯人アランニ其受刑ノ日ハ僅ニ數時間ナルモ時間ニ關セス一日トスヘキモノニ候哉又ハ同條第一項ニ一日ト稱スルハ廿四時間トアルニ依リ一日ノ刑ニ限り時ヲ以テ計算シ

例ハ本日ノ午前十時ニ刑ノ言渡アリタル者ハ明日ノ午前十時ニ至リ放免スル儀ニ可有之哉

指令

伺之趣拘留一日ノ宣告ヲ受タル者ト雖モ刑法第四十九條第三項ニ依リ處分スヘシ但放免之儀ハ監獄則第三十一條ノ通心得ヘシ

○島根縣令ヨリ内務司法兩卿宛伺

十五年二月廿四日伺
全年四月十四日内務省迄伺

新刑法ニ據リ定役ニ服スルモノ病疾ニ罹リ休役セシ日數ハ之ヲ償役セシムルノ明文ナキヲ以テ償役ノ限リニ無之儀ト相心得可然哉

舊刑法ニ據リ懲役ニ服スル者役限内疾病ニ罹リ休役セシ日數ハ新刑法第三條第二項ニ依リ輕キニ從ヒ償役セシメサルハ論ナク尙其役ニ堪ヘサルモノハ收贖ニ換刑可相成モノト

心得可然哉
兩條ノモノ民事詞訟及ヒ犯罪事件ノ訊問又ハ他ノ引合ニテ
民刑裁判所ノ呼出ヲ受ケ若クハ獄則チ犯シ處罰等ノ事故ニ
ヨリ曠役セシ如キモ亦償役セシムルニ不及儀ト心得可然哉
指令
書面ノ趣伺ノ通

○警視總監 十五年四月十二日伺
全年全月廿一指令

刑法第廿七條第三十條ニ依リ附加ノ罰金科料ヲ禁錮拘留ニ
換ユル者巡查引致シ來ルノ際本人不在ニテ裁判官命令書日
付ヨリ兩三日ヲ經過シ監獄署ヘ送致スルモノアリ右ハ檢事
執行指揮書モ命令書ト同時ニ發スルヲ以テ其日附ト送致ノ
日ト相違アル片ハ典獄ニ於テ受理セサル儀ト相心得可然哉
將日附ノ差異ニ拘ハラス直ニ執行スル儀ニ可有之哉

指令
同之通但刑期ハ禁錮又ハ拘留ヲ執行シタル日ヨリ起算スヘ
シ

○滋賀縣 十五年五月十七日伺
全年六月二日指令

第一條禁錮ノ囚ニシテ主刑滿限ノ未監視六月ノ刑ヲ附加セ
ラレタルチ司獄官ニ於テハ單ニ本刑ノミト心得既ニ該主刑
期滿放免ノ日ニ至リ誤テ監視ヲ執行セシム可キノ手順ヲ
サス解放シ即日其失誤ヲ心付キ直チニ之レヲ引戻サントス
ル最早形跡ヲ失ヒ終ニ得ル能ハスト雖モ素ヨリ本犯カ自カ
ヲ刑ヲ執行ヲ逃レタルニ非ルナレハ司獄官ニアツテハ先ツ
之レカ住籍戸長ニ右事實ヲ照會シテ更ニ本人ヲ獄處ニ出頭
セシノ可然乎將タ司獄官ハ獨リ其監視ヲ執行セシム可キノ
手順ヲナスニ止ル者ナレハ本犯カ自カラ刑ヲ執行ヲ逃レタ

ル下否トニ別ナク既決囚ノ逃走セシ場合ノ手續キニ比準シ
速ニ所轄輕罪裁判所ノ檢事ニ通告シ同官ノ處分ニ任セ可然
哉

指令

第一條引戻スヲ得ヘキ者ハ之ヲ引戻シ相當ノ手續ヲ爲ス
ヘシト雖モ其犯人遠地ニ在ル時ハ典獄ヨリ其管轄地ノ警察
署ニ監視執行ノ手續キヲ囑托スルヲ得ヘキモノトス但犯
人ニ於テ引戻シヲ肯セサルカ若クハ踪跡不分明ナル場合ニ
於テハ所轄檢事ニ通告シ其處分ニ任スヘシ
(理由)公判ニ於テハ監視ニ付スルノ言渡シアリタルト雖モ
獄司又ハ警察署ニ於テ相當ノ手續ヲナサ、ル間ハ監視執
行中ト云可ラス故ニ獄司ニ於テ誤テ解放シタル場合ノ
如キハ監視ヲ逃レタル者ト爲ス可ラサルハ辨ヲ待タサル

ナリ然ルニ之ニ監視執行ノ手續ヲ施スニハ直ニ引戻ス
ヲ得ヘキ片ハ之ヲ引戻シ獄司ニ於テ相當ノ手續ヲ盡スヲ
以テ允當ナリトスレモ其犯人遠地ニ在ル時ハ獄司ヨリ其
管轄地ノ警察署へ囑托シテ監視ノ執行手續ヲナサシメ然
ル可シ去レモ若シ之ヲ引戻スヲ能ハサルカ或ハ其踪跡不
分明ナル時ノ如キハ到底檢事ニ通告シ其處分ヲ請フヨリ
外ナカルヘシ而シテ檢事ハ通常既決囚ヲ逮捕スルト同一
ノ處分ヲナサ、ル可ラサル儀ト考量ス

第二條前條ノ場合ニ於テ本犯自カラ獄署ニ出頭スルカ若ク
ハ檢事ヨリ更ニ引致セラル、ルハ嚮ニ司法官ノ誤認ヨリ放
送レタルモノナレハ主刑放免ノ日即現ニ監視ヲ執行スヘキ
ノ當日ヨリ通シテ起算スヘキ儀ニ候乎又ハ斯ク通算セスシ
テ便ニ本犯ヲ得ルノ日ヨリ右監視ノ刑期ヲ起算シ全ク六月

ヲ執行致シ可然哉

指令

第二條現ニ監視執行ノ手續ヲ爲シタルヨリ起算スル儀ト心得ヘシ

(理由)第二條ハ第一條ノ理由アルニ依リ現ニ監視執行ノ手續アリタルヨリ其期限ヲ起算スヘキモノトス

○山梨縣

十五年四月廿五日
同年五月廿六日指令

第二條曩ニ罪ヲ犯シ監視ニ付セラレ其監視期限内再七罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付セラレタルモノ前監視日數計算方ノ儀ハ前犯主刑滿限ノ翌日ヨリ後罪ヲ犯シタル日迄ヲ期限内ニ算入候ヤ又ハ後ノ犯罪發覺ノ日迄ヲ前監視期限内ニ算入候ヤ

指令

第二條伺ノ趣前監視日數計算方ノ儀ハ前犯主刑ノ終リタル

日ヨリ實際監視ニ付セラレタル日數ヲ算入スル儀ト心得ヘシ

シ

(理由)後罪ヲ犯ス前或ハ後罪發覺ノ前已ニ遁逃シテ監視ヲ

免ルハ場合モアルヘキニ付本指令ノ如シ

○岐阜縣

十五年六月十四日請訓
同年五月廿八日内訓

新法施行以來刑期確定シタル上ハ特赦ヲ除クノ外何等ノ事由ヲ論セス其刑期ハ伸縮シ得サル儀ニ之レアル可シ然ラハ司獄官刑ヲ執行スルニ當リ若シ其期限ヲ誤算セシ等ノ爲メ滿期前放還シタルモノ、如キハ其旨ヲ檢察官ニ通知シ再ヒ收臨方請求スヘキカ將タ司獄官ニ於テ更ニ呼ヒ返シ其事由申聞刑期ノ滿ル迄更ニ執行シ可然哉

内訓

請訓ノ趣後段見解ノ通若シ呼返シ能ハサルカ又ハ所在不分

明ナル時ハ檢事ニ通牒シ其處分ニ任ス儀ト心得ヘシ

○滋賀縣 十五年六月廿日伺
全年全月廿九日指令

第一條刑法附則第二十四條ニ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スヘキ片ハ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スヘシトアリ右主刑滿限トアル上ハ初犯再犯共監視ノ附加刑アル者ヲ指シタルトト思考ス然ルニ今茲ニ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ監視ニ付セサル禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處セラレタル片ハ其豫審中拘留ノ日數及ヒ處刑中ノ日數ハ監視ノ期限ヲ中斷スル義ニ候哉又ハ中斷スルニ及ハス候ヤ
指令
第一條未決拘留及ヒ主刑執行中ノ日數ハ監視ノ期限ニ算入セス

第二條前條豫審中拘留ノ日數ハ監視ノ期限ヲ中斷スヘキモ

ノトスルモ其人違ナルカ又ハ證據不充分ニシテ無罪又ハ冤訴ノ言渡ヲ受ケシ片ハ其拘留中ノ日數ハ無論監視ノ期限ニ算入スル義ト相心得可然哉

指令

第二條伺ノ通

○警視總監

十五年六月十三日伺
全年全月廿六日指令

監視ニ付セラレタル者刑法第四十一條ニ依リ假ニ監視ヲ免サレ其期限中重罪輕罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付セラレタル片ハ其假免中ノ日數ハ刑法附則第三十四條ニヨリ通算スル義ニ可有之哉將タ通算セス無効ニ屬スル儀ニ可有之ヤ此段相伺候也

指令

後段伺ノ通

○平始審廳檢事 十五年七月五日伺
全年全月廿七日指令

第六條科料ヲ拘留ニ換ヘタル片ハ刑法附則第三十五條ヲ適用スルヲ得ヘキ哉

指令

第六條伺ノ通

○滋賀縣 十五年七月廿二日請訓
同年八月十七日指令

第一條明治十五年七月七日賭博事件ニテ豫審判事ヨリ拘留シタル被告人ニ對シ明治十五年七月八日同所詰檢事ヨリ博奕ヲナシタル一件ニ付明治十五年五月十八日欠席裁判ノ上重禁錮一月ノ刑ヲ言渡サレシ旨ヲ以テ執行方指揮有之依テ最前拘留シタル事件ト欠席裁判セシ事件トハ同一ノ事件ナルヤ判明セサルニ付其旨即日豫審判事へ問合タルニ檢事指揮ノ如ク取計ヘク旨回答セリ然ルニ明治十五年七月十日ニ

至リ檢事ヨリ被告人カ欠席裁判言渡書ヲ受領シタル月日判明セサルニ付本人取亂方照會アルヲ以テ則チ被告人尋問スルニ犯罪發覺セシヨリ即日ニ逃走シ明治十五年七月五日原籍へ立戻リタレモ言渡書ヲ請取ラサルハ勿論欠席裁判相成シヤ否ハ今ニ至リ一切承知セサル由陳述ス依テ其旨檢事へ回答シタルニ明治十五年七月十二日ヲ以テ右檢事ヨリ欠席裁判言渡書本ヲ被告人へ送達致來候右等ノ場合ニ於テハ前豫審判事ヨリ拘留シタル日ヨリ刑期ヲ起算スル義ト心得可然哉將タ檢事ヨリ指揮シタル日ヨリ起算セシヤ又ハ檢事ヨリ被告人へ言渡書ノ謄本ヲ送達シタル日ヨリ起算致ス儀ニ候哉

指令

第一條欠席裁判ヲ受ケタル者故障ヲ爲サ、ル時ハ豫審判事ニテ拘留シタル日ヨリ起算スヘキ者トス

○熊本縣 十五年八月廿九日伺
全年九月十四日指令

豫備軍中ノ犯罪有之處刑濟監視ニ附セラレ則本年七月八日ヨリ十六年一月三日迄ニ有之候處今般朝鮮事變ニ付二十四時間内臨時召募有之無届ニテ直ニ入營致候此等急劇ノ場合ハ其儘差置可然様被存候得共監視日數計算ノ儀ハ陸軍刑法第三十四條ニ準シ入營ノ日數ヲ除クヘキ者ニ有之哉成規モ無之ニ付至急相伺候也

但通常復習ノ爲メ入營セシムル如キモ本文之通心得可然哉

指令

豫備軍籍ニ在ル者監視中臨時ノ召集ニ由リ入營シタルルルハ其日數ヲ監視ノ期限ニ算入スヘシ但書ノ場合ニ於テモ亦同シ
○警視總監 十五年十二月九日伺
全年九月十四日指令

監視執行中違警罪ヲ犯シ拘留ノ刑ニ處セラレタル者該日數ハ監視期限内ニ算入スヘキ哉將タ算入セザル義ニ可有之哉

指令

後段伺ノ通

○岐阜縣 十五年七月廿八日伺
全年八月廿九日指令

監視期限ノ儀モ主刑同様其執行ヲ脱シタル日數ハ期限ニ算入セズ再犯未決監ニ入り審問中ノ如キハ全日數ヲ期限ニ算入スル事ニ有之旨本年六月七日付監第卅一號請訓書ヘ全十六日電報ヲ以テ御訓示ノ趣拜承仕候然ニ主刑執行中在監スル者ト異リ其加除計算方ニ困ミ候間不分明ノ廉左ニ列記候第一條監視ニ付スヘキモノ警察官ヨリ旅券ヲ付與シ何年月何日ニ帰宅スヘシト命シタリ(今試ニ五日間ニ帰宅スルモノト假定ス)然ルニ其途中ニ在テ酒宴ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スル如キ監視

規則ヲ犯シ(歸宅ハ豫定ノ五日間ニナシ其後期日ニハ警察署ニ出テ認印ヲ受ケタリ)後日右違犯ノ事件發覺シタル者ハ別ニ期限ニ關係無之若シ其犯則ノ爲メ豫定ノ日數外ニ出テタル時ハ其出テタル日數ノミ期限ニ算入シ得ザル義ト心得可然乎

第二條在宅監視執行中ノ者モ前第一條ノ區別ニ從ヒ差支無之乎

第三條監視期限中止ムヲ得サルノ事故アリ警察官へ申告シ許可ヲ受ケ他ノ地方ニ旅行中規則ヲ違犯シタルモノモ前同様期限ヲ加除シ可然乎

第四條前條若シ潜ニ他出シ其執行ヲ脱シタルモノ、如キハ何レヲ限界トナス可キヤ若シ其年月日等分明ナラサル時ハ最終ニ警察官ノ認印ヲ受ケタル日ニテモ基トナス可キ哉
指令

伺ノ趣監視ノ規則ヲ犯ス年月日數ハ期限ニ算入セス潜カニ他出シタル者ハ他出ノ日モ期限ヲ中止スル儀トス

但審問中ノ日數モ期限ニ算入セサルヲ以テ先度ノ指令ハ取消候事

○高松始審廳檢事 十五年十月七日伺
全年十月廿七指令

凡ソ監視ノ規則ニ違犯セシ者ハ刑法第一百五十五條ニ照シ刑ニ處スヘキハ勿論ニ有之候處右處刑滿期ノ後更ニ監視ヲ執行セシムル計算方法ハ別段御規定無之譬ハ茲ニ竊盜ノ罪ヲ犯シ重禁錮二月ニ監視六月ノ處刑ヲ受ケシ者アランニ主刑ハ既ニ役シ終リ監視ノ期限中初月ニ一度所轄警察署へ出頭シテ其謹慎ヲ表シタルノミニテ爾來出頭セス次月ニ警察署ノ告發ニ檢事起訴ノ手續ヲ爲シ其月十日ニ重禁錮一月ノ刑ヲ受ケタリ此刑滿期ノ後前ノ監視ハ如何ナル計算法ヲ以テ

執行セシメ可然ヤ今試ニ二個ノ例法ヲ舉シニ一ハ彼ノ刑期
 限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ト同シク刑法第五十二條ニ
 準據シ初月ノ後半(後ナ十五日ヲ云フ)ヲ逃走ノ日數ト見做シ前半(前ナ五日)ヲ
 前受刑ノ日トナシ更ニ五月ト十五日ヲ執行セシム一ハ右違
 犯ニ付處刑捕ノ日ヨリ滿期迄ノ日數ヲ除去シ處刑以前總
 テ有効トナシ更ニ四月ト廿日ヲ執行セシム以上二例ノ中前
 例ハ聊カ法ノ據ル所アルカ如シト雖モ自宅ニ於テ謹慎ヲ爲
 セシモ單ニ警察署へ出頭ヲ怠リ或ハ病ニ罹リ其事由ヲ届出
 サル如キ者モ既決囚ノ逃走シテ更ニ役ニ服セサル者ト同一
 視スルハ甚タ酷ニ過ルカ如ク又タ後例ハ更ニ法ノ據ル所ナ
 シト雖モ御規則違犯ノ罪ハ既ニ刑法ニ據リ罰スルヲ以テ他
 又不謹慎ノ事實ヲ發見セサル以上ハ前顯處刑以前ノ日數ハ
 監視ノ効アルモノトナサテ却テ穩當ニ是考ラル甚タ疑義ヲ

生シ候

三指分

伺之趣伺面引例ノ場合ニ於テ月ノ前半警察署ニ出頭セサル
 者ハ其月ノ十五日ヲ以テ監視規則ニ違犯シタル日トナシ其
 犯則月ノ後半ニ係ルモノハ其月最終ノ日ヲ以テ違犯ノ日ト
 ナシ其違犯ノ日ト審理中入監ノ日數及ヒ其處刑中ノ日數
 ハ監視限内ニ算入セサル儀ト心得ヘシ

○茨城縣 十五年十月三十日伺
 全年十二月一日内務省合議

既決囚ニシテ假出獄ノ裁可アリタル者新刑法實施前ノ犯罪
(裁判確定後即
 刑期限内ノ犯罪) 出獄中發覺シ(刑法第五十六條ニアルカ如ク
 出獄中罪ヲ犯シタルニアラス) 輕罪ノ刑ニ處セ
 ラレタル者ハ別ニ宣告ヲ受ケサルモ自然出獄ヲ停止セラレ
 タル者ニ之レアル可シ然ルモハ出獄中ノ日數ハ無論刑期ニ
 算入スルヲ得サル儀ト相心得可然哉

指令

伺ノ趣出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入ス

○静岡縣 十五年十月廿日伺
全年十二月廿六日内務省

第一條違警罪犯拘留ノ刑ニ處セラレシ者ハ警察署又ハ分署留置場ニ於テ執行致居候處其拘留中俄然發病シ病症急劇ナル場合ニ於テハ一時親戚故舊等ニテ保管シ其病癒ヲ待テ執行シ可然哉

第三條 警察署又ハ分署ニ於テ適宜醫師監護人ヲ雇入レ其費用ハ縣監獄費ヨリ支出シ可然哉

指令

第一條保管スヘキ者ニ非ス

第三條伺ノ通

○宇和島輕罪裁判所

十六年一月八日伺
全年一月十九日指令

重禁錮三月監視六月ニ處セラレタル犯罪事件ニ付檢事ヨリ上告及ヒ大審院ニ於テ上告ヲ棄却シ上告中主刑滿限トナリ直チニ出監ノ處分ヲナスニ際シ監視ハ出監ノ日ヨリ起算シ可然哉刑法附則第三十五條ノ權衡ニヨリ主刑滿限後ノ滯獄日數ヲ監視期限ニ通算シ可然哉

指令

伺ノ趣出監ノ日ヨリ起算スヘキ者トス

○岐阜縣

十六年二月十七日請訓
全年一月廿六日内訓

第一條明治十五年三月三十日當縣監第十九號伺書第二條ニ對シ全年四月十一日電報ヲ以テ逃走罪等審判ノ爲メ未決監ニアル日數ト雖モ刑期ニ算入スヘシト御指令相成タリ右ハ餘罪審問ノ爲メ未決監ニ入りタル日數モ同様ト相考候故例ヘハ重禁錮二月及附加ノ罰金ヨリ換ル輕禁錮十日ニ處セラ

レタル者アリ而シテ重禁錮執行中餘罪發露シ未決監ニ拘留
セラル、間ニ主刑附加刑共其期限經過シタル如キモ其拘留
日數ハ都テ刑期ニ算入シ可然哉

内訓

第一條既ニ確定シテ執行中ニ係ル刑期ニ付テハ見解ノ通但
シ後發罪ノ刑期ニ算入セサルハ勿論ナリトス

第二條爰ニ明治十四年十二月廿七日自首免罪ノ言渡ヲ受ケ
タルモノアリ檢察官ハ之ヲ不當トシ上告セシニ明治十五年
六月三十日大審院ニ於テ該裁判ヲ破毀セラレ當地裁判所へ
移サレタルニヨリ明治十六年一月十日右事件審理ノ爲拘留
相成十六年二月七日重禁錮六月ニ處セテ以テ此刑期ヲ計
算スルハ刑法第五十一條第二項第三項ノ趣意ニ從ヒ前判宣
告之日ヲ以テ起算シ不拘留ノ日數ハ算入シ得サル儀旨心得

可然哉

内訓

第二條見解ノ通

○京都始審裁判所檢事

十六年九月廿六日請訓
全年十月十三日内訓

第一條刑法第四十九條(前)

(零)一年ト稱スルハ曆ニ從フ

トス

右ハ平年ハ三百六十五日閏年ハ三百六十六日ヲ以テ計算ス
ル儀ニ有之候哉果シテ然ラハ一年ノ刑ヲ言渡サレタル者平
年ト閏年ト岐リタル時ハ受刑ノ年ノ日數ニ從フ可キヤ滿限
ノ年ノ日數ニ從フ可キ哉ノ疑團ナキ能ハス何トナレハ受刑
ハ年ノ日數ニ從フ時ハ例セハ平年三月五日ニ一年ノ刑ヲ言
渡サレ翌年閏年ナレハ翌年三月三日ニ滿期トナリ閏年三月
五日言渡サレタル時ハ翌年三月五日滿限六日ニ放免スヘキ
モノニ相成又滿限ノ年ノ日數ニ從フ片ハ平年二月十日ニ

年ノ刑ヲ言渡サレ翌年閏年ナル時ハ二月十日滿限十一日放
免ス可キモノニシテ初年閏年ナレバ翌年二月八日滿限ト相
成刑期區々ニ涉リ不穩當ノ様ニ有之抑右曆ニ從フトハ十二
ヶ月ヲ以テ計算スル儀ニテ平年閏年ヲ論セズ當年三月五日
ニ一年ノ刑ヲ言渡サレタル者ハ翌年三月四日ヲ以テ滿限ト
相心得可然哉

第二條重禁錮一年ノ刑ヲ受ケタル者六十日役過シテ逃走シ
捕ニ就キタル時ハ一年ノ日數三百六十五日ノ内ヨリ右六十
日ヲ扣除シ殘ル三百五日ヲ更ニ役セシム可キ哉將タ己ニ役
過セシ日數二月ナルヲ以テ一年ノ月數十二ヶ月ノ内ニテ二
月ヲ扣除シ殘ル十ヶ月ヲ以テ更ニ役セシメ可然哉

内訓

請訓ノ趣ハ第一條第二條共後段見込ノ通

○京都府

十六年十月二十六日同
同年十一月八日指令

本年九月二十六日京都輕罪裁判所檢事請訓其第二條ニ重禁
錮一年ノ刑ヲ受タルモノ六十日經過シテ逃走シ云々ニ對シ
本月十三日付請訓ノ趣ハ第一條第二條トモ後段見解ノ通ト
内訓有之候處當府ニ於テハ刑法第四十九條ニ據リ斯ノ如キ
モノハ一年ノ内ヨリ六十日ヲ扣除シ殘ル三百五日ヲ執行致
來候處右内訓ノ通ニテハ一年ノ刑ヲ受ケタル者六十日經過
シテ逃走スル爲メニ己ニ確定シタル裁判ノ刑期五日ヲ減縮
スル義ニテ稍不穩當ニ被考候如何相心得可然哉

指令

同ノ趣曆ニ從フトハ一年ヲ三百六十五日トスルニ非スシテ
曆ノ年月日ニ從ヒ計算スルヲ云フ則チ年ノ平閏ニ拘ハラス
禁錮一年ニ處セラレタル者本年十一月一日ヨリ執行シタル

并ハ明年十一月一日之ヲ放免ス若シ明年一月二日ニ逃走シ
同五月一日ニ捕ニ就キタルハ明後年四月三十日マテ一
年ト假定シ其内ヨリ前ニ執行ヲ經タルニケ月一日ヲ扣除シ
平年ナル時ハ明後年二月廿七日ヲ以テ滿期トス依テ京都始
審裁判所檢事曾根誠藏へ前訓示ノ通心得ヘシ

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非レハ之ヲ執行スルヲ
不得ス

○若松始審廳判事 十四年一月廿一日請訓
十五年一月十一日内訓

第二條刑法第五十條ニ刑ハ裁判確定シタル後ニアラサレハ
之ヲ執行スルコトヲ得ストアリ (治罪法第四百五十九
條ニモ又此明文アリ)其第五十一條
ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス云々トアルヲ以テ刑ハ裁
判確定ノ後之ヲ執行スヘクシテ其刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ
起算スルキヲ敢テ疑ヲ容ルヘカラス然ルニ違警罪ヲ犯シ拘

留四日ニ該ル者アランニ其裁判確定ニ至ルハ必ス四日(宣告
日)ヲ起算ヘキナリ然ルハ其裁判確定ノ日ハ早既ニ刑期
ヲ終ヘ復タ執行スヘキニ至ラン然ラハ之ヲ算入セサルハ第
五十一條ノ明文ニ背ク如何相心得可然哉

内訓
第二條違警罪ノ裁判ハ明治十四年第四十四號布告ニテ總テ
上訴ヲ許サルヲ以テ其言渡ヲ爲スハ即時ニ確定スルニ
付直チニ執行スヘキモノトス

○青森縣 十四年十一月十日同
十五年一月十二日指令

第一條刑法第五十條ニ刑ハ裁判確定シタル後ニ非サルハ之
ヲ執行スルコトヲ得ストアリ其裁判確定ノ日トハ重罪輕罪ト
モ上告期限經過シタル日ヲ以テ確定ノ日ト云フ儀ニ候哉果
シテ然レハ日ノ計算方ハ刑名宣告ノ日ヨリ上告期限ヲ三日

ヲ算シ第四日目ヲ確定ノ日トシ同日ヨリ執行ト心得可然哉
但本條ノ期限三日間中ニ免役休日等アル節ハ其三日間内
算入セサル儀ト心得可然哉果シテ然レハ上告明細書進呈
迄ノ十日間内免役休日アル時モ同様十日間内ニ算入セサ
ル義ト心得可然哉

指令

第一條裁判確定ノ日トハ控訴上告等總テ上訴スルヲ得サル
ニ至リタル日ヲ云フ上告期限ノ三日治罪法第十八條ニ依リ
初日ヲ算入セサルニ付裁判言渡ヲ受ケタル日ヨリ五日目ヲ
以テ確定ノ日トス
但書上告期限内及趣意書差出期限内ハ免後休日アリト雖モ
期限ニ算入ス期限ノ最終ノ日休暇ニ當ルルハ治罪法第十八
條ニ依リ期限ニ算入セス上告明細書トハ趣意書ノ謂ナルハ

シ趣意書差出ノ期限ハ治罪法第四百十七條ノ通

第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲

シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス
- 三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

○青森縣 十四年一月十日同 十五年一月十二日指令

第三條茲ニ犯人アリ刑名宣告ノ時其裁判不服ノ旨ヲ以テ上
告期限三日間内上告願狀差出置再三再四熟考悔悟其裁判ニ
甘服シ己ニ明細書進呈ノ日近キニ至テ願狀下戻方出願シタ

ルモノ之レアル時ハ右下戻願書差出シタル日ヨリ刑ヲ執行シ上告期限三日間ノ日數ハ期限内ニ算入シ殘ル同日迄ノ日數ハ限内ニ算入セサル儀ト心得可然哉

指令

第三條期限内ニ上告趣意書ヲ差出サ、ルモノハ即上告ヲ爲サ、ル者ナルヲ以テ其刑期ハ刑法其五十一條ニ依リ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス

(理由)右ハ第三條上告中ノ申立ヲ爲シタリト雖モ相當ノ期限内ニ趣意書ヲ差出サスシテ上告ヲ止メタルモノハ即チ上告ヲ爲サ、ルモノナレハ其裁判ハ宣告ノ日ニ遡テ確定ノ効ヲ生スルヲ以テ其刑期ハ刑法第五十一條ニ依リ刑名宣告ノ日ヨリ起算セサルヲ得ス

○福岡縣

十五年三月十日伺
全年二月廿七日付電報

刑ノ言渡ヲ受ケ自分ヨリ上告シ判決ナキ内上告取消申出タル者刑期ハ取消申出タル當日ヨリ起算致シ可然哉

指令

刑事上告人上告取消ヲ願フ者刑期起算方ハ上告届ヲ爲シタルノミニテ未タ趣意書ヲ出サ、レハ其願下ケテ許シ原裁判宣告ノ日ヨリ起算ス

○岐阜縣

十五年三月十六日伺
全年三月廿三日電報

闕席裁判ニ係ル者刑期ハ捕ニ就キタル日ヨリ起算スヘキヤ
指令

闕席裁判ニ係ル者刑期ノ起算方ハ刑法第五十一條ノ通但シ逃走ノ日數ハ刑期ニ算入セス

○岐阜縣

十五年三月三十日伺
全年四月十日指令

本月十五日闕席裁判ニ係ルモノ刑期起算方電報ヲ以テ相伺

候處全廿三日刑法第五十一條ノ通但逃走ノ日數ハ刑期ニ算入セスト電報御指揮有之例セハ三月一日闕席ニテ重禁錮一月十日ニ處セラレ三月九日ニ至リ右闕席裁判言渡書ヲ以テ送付シ來ル者アリ右計算方ハ三月一日ヨリ起算シ監外ニ在ル日數(逃走セシニアラサルモ)ヲ除キ三月九日ヨリ一月ト六日間(本刑期ノ内上告期限ノ四日ヲ除キ)刑ヲ執行シ可然哉ニ相考候得共法律上明文無之事故御明示下サレ度

指令

刑期計算ノ件第一條被告人現ニ拘留ヲ受ケタルニ非レハ監外ニ在ル日數ハ上訴期限内ト雖モ總テ刑期ニ算入セズ

○木更津始審廳檢事 十五年三月二十三日請訓 全年四月十日内訓

第一條刑法第五十一條ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス云々ト有之候處例ヘハ輕禁錮十一日ニ相當スヘキモノ酌量輕

減ノ上拘留二日ノ宣告ヲ受ケタルモノ、如キハ上告期限三日ヲ經過セサルモ該言渡ヨリ二日ヲ過クレハ直ニ放免スル儀ト心得可然哉將タ裁判確定ノ後一日間拘留スヘキ等ニ候ヤ

内訓

第一條輕罪ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ノ刑ヲ言渡シタル者ハ直ニ釋放シ裁判確定ノ後拘留ノ刑ヲ執行スル儀ト心得ヘシ

○福岡縣 十五年四月廿四日伺 全年五月八日指令

輕罪ノ刑ヲ減輕シ拘留ノ刑ニ處シ裁判確定スル迄ハ歸宿申付置確定ノ上監獄署ヘ送付セラレタルモノハ其身柄受取タル日ヨリ刑期ヲ起算スヘキモノナルヤ又ハ闕席裁判ヲ除ク外ハ總テ刑名宣告ノ當日ヨリ算入スヘキモノナルヤ疑團ヲ生シ相伺候

指令

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スヘシト雖其裁判確定ニ至ル迄監外ニ在ル日數ハ之ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

○秋田縣 十五年六月廿一日實議 全年七月三日回答

第一條刑法附則第三十四條ニ刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付スヘキトキ又ハ監視ノ期間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付スヘキトハ并ニ主刑滿限ノ後期限ヲ通算シテ監視ヲ執行スヘキトアリ假令ハ茲ニ監視六月ノ刑ニ處セラレ五十日ヲ經テ再ヒ輕罪ヲ犯シ監視十月ノ刑ヲ言渡サレタルモノアラン然ルニ前後ノ期限ヲ通算スルヲ以テ經過セシ前ノ五十日ヲ除キ残り百三十日ト十月ヲ合セテ監視ノ期限四百三十日ト通算スルハ勿論ナレ共其期限計算區分ハ再犯發覺捕獲ノ日ヲ以テスルヤ又ハ罪ヲ犯セシ當日ヲ以テスルヤ

問 第一條后犯ノ主刑滿期ノ后前后ノ期限ヲ通算ス但シ現ニ監視ヲ受ケサル日數ハ該期限ニ算入セス

答 〇上諏訪始審廳判事 十五年六月十五日請訓 全年八月十八日內訓

刑法第五十一條第二項ニ檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ云々ト之アル上ハ檢察官被告人共ニ上訴ナシタル時ト雖其申立ノ先後及ヒ其趣意ノ異同ヲ論セス該條項ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ起算スルハ勿論ノ儀ト存候得共若シ其先後異同ニ依リ其一項ト二項トニ照依スルノ差別有之儀ニ候哉

內訓

請訓ノ趣上告期限内ニ檢察官被告人共ニ上告ヲ爲シ又ハ檢察官上告ヲ爲シタルニヨリ被告人附帶ノ上告ヲ爲シタル時

ハ刑法第五十一條第二ノ規則ニ從ヒ被告人上告ヲ爲シタルニ因リ檢察官附帶ノ上告ヲ爲シタル時ハ同條第一ノ規則ニ從ヒ刑期ヲ計算スヘシ

○長野縣

十五年八月十二日同
全年全月廿四日指令

刑法第五十一條第二項ニ犯人自ラ上訴シテ云々若其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算スト有之其後判宣告ノ日ト稱スルハ判決狀ニ付記ノ日ヲ指シタル者ト相心得可然哉將タ後判々決ノ旨趣ヲ原裁判所ヨリ犯人へ言渡シタル日ヲ指シタル者ナルヤ

指令

伺ノ趣大審院ニ於テ原裁判ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移シタルルルハ其裁判言渡ノ日ヨリ起算シ大審院ニ於テ直ニ裁判言渡ヲ爲シタルルルハ其言渡ノ日ヨリ起算スヘキ者トス

○大審院判事

十五年九月五日伺
同年十月十八日指令

諸裁判所

刑事上告人ヨリ上告取消ノ願書ヲ差出シタル節上告書類下戻方ノ儀ニ付大審院長玉乃世履ヨリ別紙甲號ノ通伺出候處乙號ノ通及指令候條爲心得此旨及内訓候也

甲號

第一條刑事ノ裁判言渡ヲ受ケタル被告人其言渡ニ對シ上告ヲナシタルニ付當院檢事長ヨリ刑事局ノ簿冊ニ登記ヲ求ムルト同時ニ右上告人ヨリ差出シタル上告取消ノ願書ヲ添ヘ大審院長ニ送致ノ場合ニ於テハ右上告取消ノ願書ハ大審院長宛ニ致シ有之共右願書ハ大審院長へ差回スニ不及當院檢事長手限ニテ聞届上告書類ハ當院檢事長ヨリ下戻シ可然哉第二條前條同様被告人ノ上告ヲ當院檢事長ヨリ刑事局簿冊ニ登記ヲ求メ一件書類己ニ大審院長へ送付ニナリタル後被

告人ヨリ其上告取消ノ願書ヲ差出シタル節ハ大審院長之
聞届上告書類下戻シ可然哉

乙號

伺之趣刑期ハ上告取消願聞届ノ日ヨリ起算スル儀ト心得ヘ
シ

○内訓 十五年十月廿八日 (大審院裁判所警視廳 府縣「東京ヲ除ク」)

上告趣意書ヲ差出シタル後五日內ニ其取消ヲ願出ル者刑期
起算方ノ儀ニ付長崎縣令内海忠勝ヨリ別紙甲號ノ通伺出候
處乙號ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨及内訓候也

○長崎縣 十五年十月十六日伺 同年同月廿六日電報

甲號

同上告書類趣意書差出シ後其期限五日內ニ取消ヲ願フ時刑期
ハ宣告ノ日ヨリ起算スヘキヤ

乙號

本月十六日附伺ノ件被告人上告ヲ爲シタル場合ニ於テ上告
書類未タ大審院ニ送致セサル前其願下ヲ申出タル時ハ原裁
判所長之ヲ聞届ケ其聞届ノ日ヨリ刑期ヲ起算ス

○秋田始審裁判所檢事 十六年一月十一日請訓 同年同月三十一日指令

第一條刑法第五十一條第二項犯人自ヲ上訴シテ其上訴正當
ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス云々ト有之設令ハ竊盜罪
ヲ犯シ重禁錮ニ處シ監視ニ付セラレタル犯人ハ曾テ盜罪ヲ
犯シタル覺ナキ趣意ヲ以テ上訴スル如キ其上訴ニ付破毀ノ
理由ナシトスルモ上訴意外ノ部分擬律ノ錯誤等アル場合ニ
ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ本案裁判言渡ア
ルノ類ハ上訴不當ナルモノトナシ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ
起算スヘキヤ治罪法第四百二十七條以下ノ法條ヲ推究スル

ニ前顯ノ如キ即チ上訴ニ因リ附帶ノ原由ニ付原裁判言渡ヲ破毀セラル、上ハ破毀ヲ得タルト棄却ニ依リ上訴ノ正當不當ヲ區別致シ可然哉

内訓

第一條前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシ
第二條服役スル既決ノ囚徒餘罪後ニ發覺シ豫審若クハ公判未決中拘留スル日數ハ刑期ニ算入スヘカラサルヤ將タ算入スヘキヤ

内訓

第二條後段見込ノ通

○京都府 十五年六月廿一日
全年六月三十日指令

茲ニ一人ノ未決監ニ收監セラレ審理中餘罪發シテ又收監狀ヲ發セラル、モノアリ而シテ第一ノ所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ

ナシ數日ヲ經テ第二ノ處爲ニ對シ放免ノ言渡シヲナシ又ハ刑ノ言渡ヲナスモノアリ此場合ニ於テハ未決監ニ收監中ト雖モ第一ノ刑期ハ刑法第五十一條ノ通計算シ可然哉前顯果シテ何ノ通ナル片ハ已決囚ニシテ餘罪發シテ未決監ニ收監セラル、片ハ其餘罪ノ罪トナルト否トテ論セス其日數ハ刑期ニ算入スル義ト心得可然哉

指令

何之通

○山形始審裁判所米澤支廳檢事

十六年九月廿六日
全年十月九日指令

例ヘハ茲ニ重禁錮三月ニ處セラレタル者アランニ該言渡檢事ノ上告ニ係リ其後滯監二月ニシテ保釋ヲ許サレタリ然ルニ保釋中餘罪發覺シ又ハ更ニ罪ヲ犯シタルヲ以テ大審院ノ判決ヲ待タス直チニ重禁錮五月ニ處スルノ裁判言渡アリタ

此の場合ノ如キハ上告ニ係ル事件ノ刑期ニ拘ハラズ其執行ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ被刑者ハ前裁判ニ於テ已ニ二月ノ滯監アルヲ以テ此滯監二月ヲ扣除シ執行官ハ餘ル三月ノ執行ヲ爲スヘキ哉將タ上告ニ係ル事件ト本件トハ全ク別物ナルニ依リ之ヲ扣除スルノ限ニアラサルヤ若シ扣除スヘカシラサル者トセハ後發ノ罪ニ依リ受ケタル刑行濟ノ後大審院ニテ上告ヲ棄却セラレ又ハ前判ノ刑期ヨリ輕キ重禁錮二月限ニ處スルノ言渡アリタル所ノ如キハ前後併セテ七月ノ拘束ヲ爲スニ至リ被刑者ニ於テハ其不利益尠カラス且刑法第百二條ノ精神ニモ戻ル様被考疑義決兼候條此段請訓候也

内訓

請訓ノ趣前段見解ノ通

茨城縣 十六年十一月十二日
 令 全年十一月十日

刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シタル後檢察官ヨリモ又附帶上告ヲナシタリ然ルニ大審院ニ於テハ二者ノ上告棄却シタリ右刑期ハ原裁判渡言ノ日ヨリ起算シ可然哉

指令

伺之趣後判宣告ノ告ヨリ起算スヘシ但シ上告期限内檢察官ヨリ上告シタルモノニ係ル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スル儀ト心得ヘシ

○茨城縣 十六年十一月十二日
 令 同年十二月廿一日

刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲナシ上告者ノ主意相立タサルモ大審院ニ於テ原裁判ノ幾分ヲ破棄セラレタル節ハ原裁判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキ儀トハ思料候得共其判決ニ服セス哀訴ヲナシ棄却セラレタル節モ亦原裁判宣告ノ日ヨリ起算シ可然哉

指令

伺之趣原裁判宣告ノ日ヨリ起算ス可シト雖モ大審院ニ於テ破毀ノ言渡アリタル翌日ヨリ哀訴棄却ノ言渡迄ノ日數ハ除スル儀ト心得可シ

○新潟縣 十六年十二月廿五日伺
十七年一月十九日指令

第一條舊刑法處斷ノ者ニシテ改定律例第五十條ニ依リ償役アル者現今服役中ニ在ル者ハ新刑法ニ比準シ其償役ヲ宥メ原役限内ニ算入シ可然哉

第二條前條ノ者改定律例第四十四條ニ依リ償役アル者現今服役中ニ在ル者ハ前段同様處分シテ可然哉

指令

第一條第二條伺之通

○水戸始審裁判所檢事

十六年八月二十日伺
全年九月十八日指令

第二條檢査官ノ上告ニ係リ保釋ヲ得タル犯人又罪ヲ犯シ審問ノ爲メ拘留セラレ尋テ刑ノ言渡ヲ受テ其執行ヲ終リタル後上告ニ係ル事件判決トナリ其刑重キヲ以テ己ニ役過スル日數ヲ控除スル時右審問ノ爲メ拘留セラレタル日數モ亦刑期ニ通算スヘキ哉刑法第五十一條第二項上告中拘禁ヲ受ケタル日數ヲ刑期ニ通算スルハ畢竟犯人原裁判ニ服從シ上告中原裁判言渡ノ爲メ拘留セラレハ犯人ノ自カラ求ムル所ニアラサルヲ以テノ故ナラン然ラハ則チ上告中他ノ犯罪ノ爲メニ拘留セラレハ素裁判言渡ニ因ルニアラス毫モ上告ノ事件ニ屬セサルモノニシテ即犯人自ラ求ムル所ナリ尋常上告中拘留セラレタルモノトハ大ニ性質ヲ異ニシ其日數ハ刑期ニ通算スヘキモノニアラサル様思考致候得共疑義ニ涉リ候條此段仰内訓候也

内訓

第二條前段見解ノ通

○山形輕罪裁判所檢事

十六年十二月三日
全年十二月廿一日指令

違警罪上告ノ儀ニ付本年六月渡邊檢事長ヨリノ伺ニ對シ單
行法律規則ニ依リ拘留科料ニ處スル者ト雖モ本刑ノ長期多
數輕罪ノ範圍内ニ在ルモノハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ但書ハ
長短多寡數共全ク違警罪ノ範圍内ニ在ルモノハ見込ノ通り
ト御内訓相成候處例ヘハ證券印稅規則第四則第二條ニ該ル
モノニシテ脫稅高十倍若シクハ二十倍ノ科料金十錢或ハ二
十錢ニ處スヘキモノナルルハ上告ヲ許サレサル儀ニ可有之
哉又ハ其多數掲載ナキモ所犯ノ事實ニ依リ數百圓ニ至ルモ
ノニ付全違警罪ノ範圍内ニ在ラサルモノト解釋致シ可然哉
此段仰御内訓候也

内訓

請訓ノ趣前段見解ノ通但脫稅多額ニシテ二圓以上ノ罰金ニ

該ル可キ者ナルルハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

○和歌山輕罪裁判所檢事

十七年七月十七日伺
年七月三十日指令

刑ノ言渡ニ對シ被告人自ラ上告シ檢察官亦附帶ノ上告ヲ爲
シタル場合ニ於テ二個ノ上告共ニ棄却セラレタルルハ刑法
第五十一條ノ後段ニ依リ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘ
キ儀ト存候得共同上ノ場合ニ於テ被告人ノ上告旨趣ハ原裁
判ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラサルモ他ニ不法ノ點アル
ヲ以テ大審院之ヲ破毀シタルルハ又ハ檢察官附帶上告ノ旨趣
ニ依リ原裁判ヲ破毀シタルルハ到底原裁判不法ナリシモノ
ニ付被告人ノ之ニ服セスシテ上告セシハ不當ナリト爲沙汰
タタ且原裁判ノ破毀トナリタルハ畢竟被告人ノ上告旨趣ニ

ヲ以テ此二個ノ場合ニ於テハ刑法第五十一條第一ノ前段ニ依リ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキ儀ト相心得可然哉

内訓

別紙請訓ノ趣ハ見解ノ通

○岐阜始審裁判所檢事

十七年十月一日
全年十月十八日指令

刑法第五十條刑ハ裁判確定ノ後ニアラサレハ之ヲ執行スル
旨ヲ得ストアリ總テ刑ヲ執行ハ上訴期限經過ノ後執行ス
ルハキモノナルモ違警罪ノ如キハ明治十四年第四十四號公布
ニ依リ上訴ヲ許サレサルモ之ナレハ裁判宣告ハ即日ヨリ執
行スルキモノナラン依テ思考スルニ茲ニ輕罪犯ニシテ宥恕
減輕等ニテ禁錮ヲ減盡シテ拘留セラレタルモノハ勿論縱令
減シテ其長期一月以上ニ在ルモ其短期十日以下トナリ其短
期ヲ以テ拘留ニ處セラレタルモノハ其現ニ受クヘキ刑ハ則

子違警罪ノ刑ナレハ該第四十四號ノ公布ニ基キ上訴ヲ許サ
レザルモノトシ裁判宣告即日ヨリ執行スルヘキモノト心得可
然哉

内訓

請訓之趣禁錮ヲ減盡シテ拘留ニ處セラレタル者ト雖モ尙ホ
上訴スルヲ得ルヲ以テ上訴期限經過ノ後ニアラサレハ其刑
ヲ執行スルヲ得サル儀ト心得可シ

○岐阜縣

十七年十二月五日
十八年一月廿四日指令

第一條甲地裁判所ニ於テ缺席裁判ヲ受ケ乙地ニテ他ノ被告
事件ニテ捕縛入監シタルモノ其事件數罪俱發例ニ依リ不論
罪等ノ言渡ヲ受ケタルモノアリ右刑期計算方ハ假令他ノ事
件ニテ捕縛入監中缺席裁判アリタルヲ知リタル場合ト雖
モ明治十五年九月二十日本縣監第五十二號伺御指令ニ依リ

逮捕ノ日ヲ以テ該缺席裁判ノ刑期ヲ起算シ可然哉
第二條缺席裁判アリタルトテ知ラス全ク往時ノ罪科ヲ悔ヒ
自首入監中右缺席裁判アルタルトテ知リタル時モ猶本第一
條ノ通相心得可然哉

第三條治罪法第四百十條但書ニ就キタル時ハ十日内ニ
故障ヲ爲スヘシトアルハ是レ單ニ本案事件ヲ指シタル場合
ニテ他ノ事件ニテ入監中當然定期ノ期限ヲ經過スルト雖モ
缺席裁判言渡アリタルトテ知リタルヨリ十日ノ期限ヲ與フ
ヘキモノカ

指令

第一條第二條伺之通

第三條本案事件ノ爲メ捕ニ就キタル場合ト否トニ拘ハラス
缺席裁判アリタルトテ知リタルヨリ十日ノ期限ヲ與フ可シ

但シ伺書ニ治罪法第四百十條トアルハ第四百七條ノ誤寫ナ
ル可シ

第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走

ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

○岐阜縣 十五年三月三十日伺
令 廿四年四月十日指令

刑法第五十二條刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃
走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ストハ例セハ役場ヲ逃
走シタル日ヨリ捕ニ就キタル日迄ヲ指スカ前後受刑ノ日ト
有之文字上ヨリ觀レハ逃走罪ノ處斷日迄刑ヲ受ケサル間
(未決監ニ在ル日數)ハ假令入監セシ者ト雖モ刑期ニ算入ハナラサル様ニ
モ被考候此境確ト御指示ヲ仰キ度候

指令

第三條逃走罪等審判ノ爲メ未決監ニ在ル日數ト雖モ刑期ニ

算入スヘシ

(理由刑法第五十二條ニ逃走ノ日數ヲ除キトアレハ役場ヲ逃走シタル日ヨリ捕ニ就キタル日迄ヲ云フモノニシテ其逃走罪等審判中ニテ未決監ニ在ル日數ハ仍ホ刑期ニ算入スヘキ儀ト考量ス

○群馬縣

十五年五月三十日伺
全年六月七日指令

茲ニ已決囚アリ窃盜罪ニ依リ重禁錮七十五日ニ處セラレ服役中逃走シ外ニ在テ又窃盜罪ヲ犯シ捕ニ就キ豫審中未決監ニ繫獄日數百日目ニ至リ該犯ニ依リ原刑滿期ノ上更ニ重禁錮二月刑ノ言渡ヲ受ケ候者刑期計算方之儀ハ刑法第五十二條ニ照據シ逃走ノ日數ヲ除キ繫獄日數ハ原犯刑期ニ算入シ猶剩アルト雖モ後犯ノ刑期ニ算入セサル儀ト相心得可然哉
御指令ニ付

伺之通

○長野縣

十六年一月十九日伺
全年二月一日指令

監視ノ規則ニ違背シタル科ニ依リ刑法第一百五十五條ニ照シ重禁錮若干ニ處セラレタル者其重禁錮滿期ノ前後監視ノ殘期ヲ執行スルハ勿論ノ處客年十一月十八日付テ以テ刑法第五十二條中其逃走ノ日數トハ再ヒ捕ニ就キ其逃罪審問中拘留ノ日數ヲ含蓄スル儀ニ可有之哉又ハ全ク拘留外ニアル日數ノミニ可有之哉果シテ拘留外ニアル日數ノミトセハ捕ニ就キタルヨリ逃走罪宣告マテノ拘留日數ハ刑期ニ算入スル儀ト相心得可然哉ノ旨相伺候處后段伺ノ通ト御指令相成候ニ付テハ主刑ト附加刑ノ違ヒハ有之モ其刑期計算ニ至リテハ右監視ノ規則ヲ違背シタル廉取調中繫獄セン日數ヲモ監視期限ニ算入スヘキヤ又ハ該繫獄中其悔改ノ狀ヲ視ルニ由

加刑到底監視ノ傲ヲ奏スル能ハサルモノニ付之ヲ算入セザルハ儀ト相心得可然哉

御指令有之候處茲ニ明治四年七月廿一日準流十年ノ言渡ヲ

御指令有之候處茲ニ明治四年七月廿一日準流十年ノ言渡ヲ受ケ處刑中逃走外ニ在テ又犯罪ニ依リ全十六年十二月十七日新拘役十年加役七十日ノ處刑中全十年四月二日再ヒ逃走セシニ依リ棒鎖二日ノ上懲役終身ニ處セラレ服役中全囚ニ逃走ヲ報シタルニ依リ減一等懲役十年トナリタル者ア流右ハ千葉縣伺ト事情相違ノ廉モ有之候ヘ尺矢張該内訓ニ基キ刑法第五十二條ニ從ヒ逃走棒鎖等ノ日數ヲ除キ最前受刑ノ

本年八月御省第三八一〇號内訓千葉縣伺第一條ニ對シ云々

日(明治四年七月廿一日)ニ測リ已ニ役過セシ日數四年三百十九日(自明治四年七月廿一日至全六年二月十八日日數三年二百十三日自全六年十二月十七日至全十年四月一日日數三年百六日合セテ本文ノ如シ)ヲ懲役十年ノ内ニ以テ扣

除シ刑期ヲ計算致可然哉

御指令有之候處茲ニ明治四年七月廿一日準流十年ノ言渡ヲ

伺ノ趣明治十年四月二日即チ懲役終身ノ宣告アリタリ日ヨ

第五款

第六節 假出獄

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許ス可ク得

例ヲ用ヒス

○青森縣 十四年十二月十日
十五年一月十二日 指令

現今在監ノ者獄則テ謹守シ悛改ノ實跡顯明ナレハ刑法第五十三條ニ依リ刑期四分ノ三ヲ經過スル後ハ假出獄ヲ許サレ候義ニ之アルヤ果シテ然ラハ刑期何年以上ノ者ト心得然ル可キ哉

指令

新律綱領改定律例ニ依リ懲役禁獄ニ處セラレタルモノモ刑期長短ヲ問ハス刑法第五十三條ニ依リ處分スルコトヲ得
(理由假出獄ノ恩典ハ必スシモ新刑法ヲ以テ處斷シタル者ニ限ラス新律綱領改定律例ニ依リ懲役禁獄等ノ刑ニ處セラレタル者モ亦刑法第五十三條ニ該ル者ハ刑期ノ長短ヲ問フ總テ該條ニ依リ假出獄ヲ許スコトヲ得右伺中内務省關

係ノ廉有之ニ付一應同省ノ照會ノ上御指令相成然ル可ク

○福井縣 十四年十二月十日
十五年二月廿七日 指令

現行ノ法律ニ依リ懲役禁獄ノ刑ヲ受ケ明治十五年一月以後引續キ在監ノ者ニシテ能ク獄則テ謹守シ悛改ノ實跡顯ル者ハ刑法第五十三條ヲ適用シ其刑四分ノ三ヲ經過スル后ハ假出獄ヲ許サレ候儀ト心得可然哉

指令

伺之通

○宮城集治監 十四年十二月十日
十五年二月三日 内務省指令

第一條本年十月甲第七十四號ヲ以テ第一條ニ懲役人償役ノ義伺出候處本年中ハ從前ノ通心得可シト御指令相成右悛改正休役日ニ據リ本年中ハ從前ノ通取扱來十五年一月以後ハ無論償役セシメス新刑法處斷ノ者同一ニ取扱候心得ニテ可

然哉
 第二條前條ノ如ク無論一月以後ハ新刑法ニ從フヘキ儀ニ候
 六日現行法律ニテ處斷セラレシ者總テ舊法ニ依ラヌ存留養
 親或ハ役限内癡篤疾ニ罹リシ等モ收贖ヲ聽サハルハ勿論獄
 則テ謹守シ特典減等ヲ請フヘキ者ノ如キモ新刑法ニ準ヒ假
 出獄ヲ聽サル、儀ニ候哉又ハ新舊比照シ輕キニ從フヘキ儀
 ニ候哉

指出指令

第一條伺之通
 第二條舊法ニ依リ處斷シタル者新法實施後存留養親或ハ役
 限内癡篤疾ニ罹リタル者收贖ヲ聽シ且特典ト假出獄トハ別
 種ノモリニ付減等セラレヘキモノハ之ヲ申請シ假出獄ヲ聽
 ス又キモノハ刑法ニ依リ處分スヘシ

○山梨縣

十五年一月十九日同
 全年三月三日指令

第一條治罪法第四百七十七條ニ特赦ハ刑ノ言渡確定シタル
 後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法
 卿ニ申立ルヲ得ト有之右所謂犯人ノ情狀トハ刑ノ言渡ヲ
 受ケタル後獄内ニ在テ悔悟改悛ノ狀ヲ著シ善ク獄則テ謹守
 スル如キ又ハ一旦ノ迷誤ニ因テ罪ヲ致シ所犯ノ情狀ニ對シ
 處刑ノ苛酷ニ涉リ憫憐スヘキ事情アル如キモノ等ヲ指シタ
 ル儀ニ候哉第二條果シテ前條ノ如クナルホハ刑法第五十三
 條ニ依テ假出獄ヲ許サルヘキ者ハ善ク獄則テ謹守シ悔悟改
 悛ノ狀アリト雖モ未タ特赦ヲ申立ル程ニ至ラサルモノハ處
 置スルノ法ニ候ヤ又ハ特赦ヲ申立ルハ後段ノ如ク全ク犯情
 ノ憫憐スヘキニ止リ其獄則テ謹守シ悔悟改悛ノ狀アル如キ
 モノハ特赦ヲ申立ルノ限ニ非サル義ニ候哉

第三條舊法ニ據リテ懲役禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ニモ前
兩條ノ例ニ準シテ取扱フヘキ義ニ候哉右ハ目下舊法ニ據テ
處斷セラレタル者ノ中悔悟改悛ノ狀アル者有之之レカ爲メ
假出獄ヲ申立ツヘキ歟將タ特赦ヲ申立ツヘキ歟取扱方疑感
ヲ生シ候

指令

第一條特赦ノ申立ヲ爲スニ付テハ一定ノ規則ナシ
第二條假出獄ハ刑法第五十三條ニ記載シタル場合ニ於テ之
ヲ許シ特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ之ヲ申立ル
トヲ得ヘシ故ニ假出獄ヲ許スヘキ刑限ニ至ラサル者ニシテ
特赦ノ申立ヲ爲スヘキ場合アルヘシ因テ假出獄ハ特赦申立
ル程ニ至ラサル者ヲ處置スルノ法ニアラス
第三條伺之通

①岐阜縣

十五年一月廿日同全年三月六日内務省
ヨリ合議ニ付全三月十三日全省指令

第二條舊刑法ニ依リ處斷セラレタル懲役終身以下ノモ假
出獄ヲ許スヘキトキハ各年十二月第八十一號公布ニ依リ新
舊法ニ比照シ刑法第五十三條以下假出獄ノ例ニ從ヒ取扱可
然哉

第二條假出獄ノ證票ハ刑法附則第三十九條ニ從ヒ典獄ノ名
ヲ用フヘキハ勿論ト心得可然哉

指令

第一條假出獄ニ付テハ客年十二月第八十一號公布ニ依ルハ
キモノニ非ス
第二條伺之通但監獄則ニ屬セシ證票ノ記式ニ從ヒ詳具スヘ
キハ勿論タルヘシ

①岐阜縣 十五年四月四日同
全年五月十八日第二項内務省合議

舊刑法ニ依リ處斷セラレタルモノ假出獄ノ義ニ付本年一月二十日監第五號ヲ以テ別紙相伺候處朱書ノ通御裁令相成御趣旨明解仕兼候間左ノ廉御明示下サレ度矣
一舊刑法ニ依リ本年判決ヲ經タルモノハ勿論昨十四年迄ニ處斷目下在監候モノモ都テ刑法第五十三條第二項ノ趣旨ニ依リ假出獄ヲ許サレ候乎

二前條果シテ許サ、ル義ニ候ハ、客年第八十一號公布ニ依リ例セハ舊刑法懲役終身ハ無期徒刑同懲役十年ニ比照シ取扱可然哉

第一項何之通
第二項懲役終身ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑法第五十三條第二項ニ依リ懲役十年刑ニ處セラレタル者ハ同條第一項ニ依

リ處分ス

○新潟裁判所新發田支廳詰檢事 (十四年九月七日請訓 十五年四月廿七日内訓)

第八條刑法第五十三條ニ於テ流刑ノ囚ハ假出獄ノ例ヲ用ヒサル旨掲載有之候處右ハ有期流刑ノ囚假ニ幽閉ヲ釋キタル時間又犯罪有之重禁錮若クハ輕懲役等ニ當ルト雖モ第五十六條第五十七條ノ例文ハ適用スルヲ能ハサルヲ以テ幽閉假釋中ノ日數ハ尙刑期ニ算入シ又改悛ノ情有之候得ハ後犯罪期四分ノ三ヲ輕過スレハ又假出獄ヲ許スヲ得ル義ト心得可然哉

内訓

第八條刑法第五十七條ニ依リ假出獄ヲ許スノ限ニアラス

○奈良始審廳檢事 (十五年十月廿三日質問 全年十一月二日回答)
第七條刑法第五十三條假出獄ノ處分ハ初メ行政ノ處分ヲ以

テ許スモノナルヲ以テ亦行政ノ處分ヲ以テ禁スルヲ得ヘキ
カ又ハ一旦許シタル上ハ刑法第五十六條ニ定メラレタル外
停止スルヲ得サルカ

回答

第七條後段貴解ノ通

○岡山縣 (十五年一月二十日伺
全年二月二日指令)

舊法ニ依リ刑名宣告ノ囚役業勉勵且品行宜敷而シテ刑期四
分ノ三ヲ經過セシ者新法ニ從ヒ假出獄伺出可然哉此段相伺
候也

指令

伺之通

○福島縣伺 (十五年二月三日伺
全年二月十三日指令)

第三條刑法第一編第二章第六節ハ舊刑法受刑現存懲役ニモ

亦之ヲ適用スルヲ得ヘキ乎

指令

第三條假出獄ノ現則ハ舊刑法ニ依リ處斷セラレタル者ニモ
亦之ヲ適用ス

○栃木縣 (十五年二月三日伺
全年三月十三日指令)

刑法第五十三條重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル獄則ヲ謹守シ
悛改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スル後行政ノ處分
ヲ以テ假出獄ヲ許スヲ得トアリ

右ノ規則ハ舊法ニ依リ處斷セシモノニモ適用スルニ非サレ
ハ實際上不公平ノ結果ヲ見ルニ至ルヘシ例ヘハ本年一月一
日ヲ以テ界トシ其ノ一日以前即チ十二月二十八日舊法ニ依
リ處斷セシモノハ假出獄ヲ許サス其ノ一日以後ニ舊法ニ觸
レシモノヲ(翌月廻リ)刑法第三條ニ依リ新法ヲ以テ處斷セシ

モノハ假出獄ヲ得ルトキハ大ナル不公平ノ結果ト謂ハサル
ヲ得ス故ニ本條假出獄ハ行政ノ處分ナルヲ以テ舊法ヲ以テ
處斷セシ犯罪ト雖トモ同様適用スルニ差支ナキ儀ト心得可
然ヤ

指令

書面伺之通

○警視總監 (十五年三月八日伺合 全年三月十二日指令)

舊法律ヲ以テ處斷セラレタル已決囚獄則テ謹守シ懊悔ノ狀
アル片ハ仍ホ刑法第五十三條ニ依リ其刑期四分ノ三ヲ經過
スル後ハ行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許サ、ルヘキ義ニ可有
之ヤ

指令

伺之通

○岩手縣 (十五年一月二十五日伺合 全年三月十八日指令)

刑法第五十三條重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則テ謹守
シ懊改ノ狀アル片ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ
處分ヲ以テ假リニ出獄ヲ許スヲ得云々ト之アリ右ハ新律
綱領ニ依リ懲役終身以下ノ刑ニ處セラレタルモノニシテ懊
改ノ狀アルモノ、如キモ刑法第五十三條ニ依リ行政ノ處分
ヲ以テ假出獄セラルヘキ儀ニ候ヤ

指令

伺之通

○茨城縣副典獄 (十五年二月二十日伺合 全年三月二十日回答)

第三條舊法ニ據リ受刑ノ者ト雖凡能ク獄則テ守リ懊改ノ狀
アル片ハ刑法第五十三條ニ因リ刑期四分ノ三ヲ經過スル者
ハ假出獄ヲ許スヘキモノト相心得可然哉

回答

第三條見解ノ通

○愛知縣 (十五年三月二十三日伺
同年五月二日内務省指令)

第四條刑法第五十三條重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則
ヲ謹守シ悔改ノ狀アルトキハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ
後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得無期徒刑ノ囚ハ
十五年ヲ經過スルノ後亦同シト之アリ右ハ舊律ニ依リ處刑
セラレタル重罪輕罪囚ニ於テモ亦此ノ刑ヲ用ヒラレ候義ニ
候哉

指令

伺之通

○京都府 (十七年六月十七日伺
同年九月三日陸軍卿連署)

軍律ニ依リ處分ヲ受タル者地方監獄ニ於テ執行中假出獄又

ハ特赦ノ申立ヲ爲スヘキモノト確認スルヲアル片假出獄ハ
典獄ヨリ直チニ内務陸軍兩卿ニ特赦ハ陸軍卿ニ上申スヘキ
モノニ候哉又特赦ノ申立ニ於テモ其他ノ檢察官ヲ經由スヘ
キモノニアラスト相心得可然哉

指令

假出獄ノ義ハ伺ノ通特赦ハ其裁判宣告ヲ爲シタル鎮臺司令
官若クハ營所司令官ヲ經由シ陸軍省ヘ具申スヘキ義ト可相
心得

○岡山縣 (十八年六月九日伺
同年十月廿七日指令)

刑法ノ刑ト他ノ法律規則ノ違犯トニ依リ重禁錮及ヒ輕禁錮
ト同時ニ處斷セラレタル者アリ重禁錮ノ刑期ニ對シ行狀勘
査ニ則リ刑期ヲ四分ノ三其間行狀ヲ視察シ果シテ悔改ノ行
爲アルニ於テハ假出獄ヲ許可セラレハキ哉果シテ然リトセ

特別監視執行中該刑期滿限ノ日ニ至ラハ獄署ニ拘留シ後刑則チ輕禁錮刑ヲ執行セサルヘカラス之ヲ拘致シ再ヒ後刑ヲ執行スルカ如キハ假出獄ヲ許可セラルベキ旨趣ニ對シ聊カ不隱當ヲ覺アモノ、如シ如斯場合ハ假令刑名異ナルモ前後均シク獄署ニ拘留シ執行スルノ科罰ニシテ宜シク前後始終ヲ通覽視察スルニアラスンハ其改悛ノ如何ヲ認定スルニ甚々難シ故ニ假出獄ハ密ニ行政ノ處分ニ係ルモノニ候ハハ如是兩科一時ニ併科セラレタルモノハ特ニ前後ノ刑期中各四分ノ一ノ日數ヲ通算シ後刑ノ終期ニ於テ假出獄ヲナシ得ルシ期限ト爲スヘキ哉

指令
洞之通

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍亦島地

ニ住居セシム

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルコトヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

○山梨縣 十五年四月廿五日伺
全年五月廿六日指令

第三條舊法律ニ依リ處刑ノ者假出獄ヲ許サレタル節ハ特別監視ニ付スルニ及ハス候哉

指令

第三條特別監視ニ付スル儀ト心得ヘシ

第五十六條 假出獄更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

○福嶋縣 十七年二月廿七日伺
同年三月三日指令電報

假出獄ヲ許サレタル者賭博ヲ犯シ懲罰ニ處セラレタル時出

獄ヲ停止シ其執行ノ順序ハ刑法第九十五條ニ據ルヘキヤ

指令

伺之通

司法省丙第七號

内務卿連帶警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
集治監明治十八年九月十日付

假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルハ左ノ手續ニ依リ處分スヘシ

假出獄停止手續

第一條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ後現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ直チニ假出獄ノ停止ヲ申渡シ當初下付シタル假出獄ノ證票ヲ取上クヘシ

第二條 典獄ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ其事狀ヲ具ニシ内務司法兩卿ニ開申スヘシ

第三條 甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者ヲ乙地方ニ於テ停止シタルトキハ乙地方典獄ヨリ其事狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ假出獄ノ證票ヲ送致スヘシ

第四條 前條ノ場合ニ於テ乙地方監獄ニ拘禁スルハ其監獄ノ新入者トシ本刑後刑共乙地方ニ於テ執行スヘシ
假出獄停止申渡書式

府縣族籍

刑期名

何

某

年 月 日 齡

其方儀受刑以來獄則ヲ謹守シ改悛ノ狀著明ナルニ由リ何年月日假出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處復タ重(輕)罪ヲ犯シ拘禁ニ就クヲ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

某 集治監 監獄署

年月日

典獄 何 某印

甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者チ乙地方ニ於テ停止ノ申渡ヲ爲ストキノ書式

府縣族籍

刑期名

何 某印

年某齡

其方儀何年月日某集治監ニ於テ假出獄ヲ許シ其證票ヲ與ヘタル處復々重(輕罪ヲ)犯シ拘禁ニ就クヲ以テ其出獄ヲ停止シ證票取上候事

某集治監

年月日

典獄 何 某印

○栃木縣

十八年十二月五日 内省卿連帶指令

第二條刑法第五十六條ニ假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シ候事

者ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セスト有之右所謂出獄中ノ日數トハ即本年九月丙第七號御達假出獄停止手續第一條ニ依リ典獄ニ於テ假出獄ノ停止申渡シテナセシ前日迄ヲ云フモノナルヤ果シテ然レハ刑法第五十二條刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キ未決監ニ拘禁中ノ日數ヲ本刑々期ニ算入スル者ト權衡如何ト被考候因テハ前文第五十六條出獄中ノ日數計算方ハ假令假出獄停止ノ申渡ヲナサ、ルモ既ニ繫獄スル以上ハ其日數ハ刑期ニ算入スル儀ト心得可然哉

第二條假出獄停止手續中假出獄申渡書式之末文ニ其出獄ヲ停止シ證票取上候事トアルハ出獄中己ニ其證票紛失等ノ爲所持セサル者ト雖猶證票取上ノ四字ヲ記入スル儀ニ候哉
指令

書面伺之趣左ノ通可心得事

第一條末段伺之通

第二條證票取上ノ四字ハ省クヘシ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

○宮城縣 十六年八月廿三日同
全年九月八日指令

刑法第五十七條ニ曰刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サストアリ就テハ舊法ニ處セラレ該刑期中新法實施後ニ至リ重罪輕罪ヲ犯セシ者モ亦假出獄ヲ許サトル儀ニ可有之哉將タ許スヲ得ヘキ哉若シ是レヲ許スモノトセハ其刑期四分ノ三計算方ノ如キハ舊刑殘日數ハ新刑ニ處セラレタル日數トテ合算スル儀ト相心得可然哉此段相伺候也
指令

前段見込ノ通

第六款

第七節 期滿免除

第六十二條 刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

司法省丙第二十號達 大審院裁判所警視廳府縣
(東京府ヲ除ク)十四年

新法實施後ハ已決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得

同省丙第十五號達 大審院裁判所警視廳府縣
(東京府ヲ除ク)十五年四月十七日

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ義ニ付テハ昨明治十四年丙第二十号ヲ以テ相達置候處始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ

發スル儀ト心得ヘク此旨更ニ相達候事

○松江裁判所檢事 十四年十二月廿八日伺
十五年一月廿四日指令

第二條第六十二條刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕ヲ命ジタル時ハ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス
法文ニ明文ナシト雖モ本條ノ場合ニ於テ令狀ヲ發スルノ時即時又ハ數時ノ後若クハ期滿免除ニ至ル迄何時ニテモ檢事ヨリ請求スルヲ得ヘキヤ

指令

第二條明治十四年當省丙第二十號達ニ依リ逃走ノ後ハ期滿免除ニ至ル迄何時ニテモ檢事ヨリ令狀ヲ發スルヲ得

○大坂控訴檢事長 十五年一月廿五日伺
全年二月十四日指令

既決囚逃亡シタル者ニ對シ發スル令狀ハ其刑ノ執行ヲ爲ス地ヲ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得旨十四年丙第二

十號ヲ以テ御達有之候處右ノ場合ニ於テ該檢事逃亡人ノ所在ヲ知ルヲ得サル時ハ之ヲ管轄スル控訴裁判所檢事長ニ申立檢事長ヨリ管内各檢事ニ搜查逮捕ヲ命シ且ツ他ノ控訴裁判所檢事長ヘモ此事ヲ請求スル儀ニ有之候哉又該檢事ヨリ直ニ各控訴裁判所檢事長ニ搜查逮捕ヲ請求スルヲ得ル儀ニ候哉其手續ヲ示スノ明文無之ニ付此段相伺候也

指令

明治十四年本省丙第二十號達既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ハ控訴裁判所檢事長ニ關係ナク直ニ始審裁判所檢事ヨリ發スヘキモノトス

○廣島控訴檢事 十五年二月六日伺
全年二月廿二日内訓

已決囚ノ逃走者ヲ處分スル義ニ付テハ本省丙第二十號ヲ以テ御達相成候義ニ有之候處往々管轄外檢事ヘ逮捕方告達ノ

囑託之アリ其都度逮捕方管内各檢事へ告達致シ置候義ニ有之右ハ全ク治罪法第三百三十五條ノ場合ニ準擬請託候義ニ可有之然ルニ管内檢事ニ於テ令狀ヲ發スル等ノ取扱上疑問モ有之必竟刑法第六十二條ノ令狀ハ已ニ刑ノ言渡ヲ受タル囚人ナルヲ以テ檢事執行上ノ點ヨリ發スル命令狀ニシテ未タ有無罪ノ決セサル被告人ニ發スル豫審ノ令狀トハ自ラ差異有之殊ニ其令狀ヲ發スル職權アル相當官吏ノ囑託ヲ受ケ候上ハ右告達ヲ受ケタル各檢事ニ於テ發見次第直ニ令狀ヲ發シ且ツ逮捕上ハ原檢事へ送致候儀ハ勿論ニ候得共便宜ニ依リ一應原檢事へ照會其囑託ヲ受ケ逮捕ノ地ニ於テ逃走ノ處分並ニ刑ノ執行爲致可然哉ニ思料候得共爲念一應相伺候也

○内訓
 已決囚逃走者處分ノ義ニ付キ伺之趣ハ本年當省丙第六號達

ノ通逃走罪ハ豫テ囑託アルモノト看做シ直ニ其裁判所ニ處分ヲ求ム可シ此旨及内訓候也

○水戸始審檢事 十五年一月廿四日請訓
 全年三月廿五日内訓

第二條後來未決已決ノ囚徒逃走シタル片ハ其都度地方長官ヨリ司法卿へ届出候手續ニ有之候處右ハ此後共ニ變更無之義ト心得可然哉

○内訓

第二條已未決囚徒逃走シタル片地方長官ヨリ司法卿ニ届出ルニ及ハス

○山田始審檢事 十五年一月十五日請訓
 全年三月二日内訓

第十條治罪法ニ於テハ期滿免除ノ期限ヲ中斷スルモ二倍ニ過クルヲ得サルノ明文アリト雖モ刑法第六十二條ニ於テハ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算スルノ明文ア

リテ其停期ナキニ依リ數度令狀ヲ發スル片ハ終ニ期滿免除
ヲ得ルノ日ナキカ如シ果シテ然ラハ刑法第五十九條ハ無用
ニ屬スルコアルヘシト雖モ刑法ノ期滿免除ハ單ニ社會其罪
ヲ遺念スルノ一點ニ止ルヲ以テ遺忘スルヲ能ハサルノ手續
即チ逮捕ヲ命シタル片ハ期滿免除ヲ得ルノ限リニ非ザル乎

第十條法律ノ精神ハ訓示ノ限ニ在ラス

○平始審檢事

十五年七月六日請訓
全年全月廿六日内訓

第六條刑法第六十二條ニアル最終ノ令狀ヲ出シタル日トハ
囑托ニ依リ他ノ檢事カ發シタル令狀ニ記載スル日ニアラス
シテ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ檢事ヨリ發シタル最終ノ令狀ニ
記スル日ナルヤ

○内訓

第六條囑托ヲ爲シタル檢事又之ヲ受ケタル檢事ヲ區別セス
總テ刑ノ執行ノ爲メ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ起算スル
義トス

○平始審檢事

十五年九月十四日請訓
全年全月三十日内訓

第一條刑法第六十二條ノ最終ノ令狀ヲ出シタル日ハ第六條
内訓ニ囑托ヲ爲シタル檢事又ハ之ヲ受ケタル檢事ヲ區別セ
ズ總テ刑ノ執行ノ爲メ最終ノ令狀ヲ發シタル日ヨリ起算ス
ル義トストアリ然ラハ甲地ノ檢事逃走ノ囚徒ニ對シ九月十
日ニ令狀ヲ發シ其囑托ヲ受ケタル乙地丙地ノ檢事ハ九月二
十日付又ハ十月一日付ニテ令狀ヲ發シタル片其最終ノ令狀
ヲ發シタル日ハ十月一日トスルヤ
若シ十月一日ヲ以テ最終ノ令狀ヲ發シタル日トスル片ハ其
囚徒ハ何處ニ潛匿スルニ關セス十月一日ヨリ刑ノ期滿免除

ヲ起算セラルヘキ者ナリ然ルニ十月一日ニ丙地檢事カ令狀ヲ發シタルハ甲地及乙地檢事ノ知ラサル所ナルヲ以テ區々ノ處分ニ涉ルノ恐レナキ能ハス右ハ如何處分シ可然哉

内訓

第一條前項見込ノ通後項甲地若クハ乙地ノ檢事ニ於テ逮捕シタル時ハ丙地檢事ニ照會スレハ其令狀ヲ發シタル日ハ明白スヘシ

○前橋始審檢事 十五年十一月八日伺 全年全月十七日指令

第一條刑法第六十二條ニ刑ノ執行ヲ遁レタルモノ云々ト有之候處總テ附加刑モ右ニ包含スル儀ト心得可然哉

指令

第一條附加刑ト雖モ法律上逮捕ヲ許スヘキ者ハ皆包含ス

第七款

第八節 復権

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ公權ヲ復スルヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復権ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復権ヲ得ス

赦ニ因テ復権ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス第六十五條 復権ハ赦裁ニ非サレハ之ヲ得可ラス

第八款

第五章 再犯加重

第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罪金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス

○仙臺始審檢事

十五年一月六日問合
全年一月十日回答電報

逃走シタル懲役終身刑ノ者捕縛シタル時外ニアツテ重輕罪アラハ其重輕罪ハ何ノ名條ニヨリ處分スヘキヤ又終身刑ノ懲役人ハ無期ノ囚徒ト見做シ監獄則第百九條ニヨリ獄吏ニ引渡シ然ル可キ哉

回答

逃走シタル終身懲役ノ者外ニ在テ犯シタル重輕罪ヲ犯スト雖モ刑法各本條ニ依リ處分シ直ニ獄吏ニ引渡スヲ得サル

モノトス

○熊谷始審檢事

十五年二月七日問合
全年二月十七日回答

第三舊律中懲役五年以上ノ刑ニ處セラレタル者新法實施ノ後右服役中又ハ五年以上ノ罪ヲ犯シタルハ舊法ニ從ヒ拘役四年ヲ加フヘキヤ又ハ刑法第九十五條ニ從ヒ處分スヘキヤ

回答

第三項ハ新法ニ依リ處斷シ服役ノ前後ハ刑法第九十五條ニ依リ處分シ可然ト思考ス

○宮城縣

十五年六月三十日問合
全年八月四日内務省合議

己決因外役先ニ於テ違警罪ヲ犯シ法衙ニ於テ處刑ノ言渡ヲ受ケタルハ罰金ハ該囚所持金或ハ傭工錢ノ内與フヘキ領置金ノ内ヨリ納完セシメ拘留ノ如キハ有期刑ノ者ハ本刑滿期

ノ後之レヲ執行セシムル義ニ可有之哉果シテ然ルハ無期
刑ノ者ニ於テハ如何取計可然哉

指令

書面罰金ハ本犯所持金ノ内ヨリ納完セシムヘシ其他刑法第
九十五條ノ旨意ヲ了解シ相當處分可致事

○札幌縣 十六年二月十六日請訓
全年三月十二日内訓

第一條刑法第八十五條前畧若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル
刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ重キ
者ヲ執行ストアリ假令ハ玆ニ他人ノ府縣ニ懲役七年又囚アリ
テ限内逃走シ本縣内ニ於テ縛ニ就キ刑法第四百十二條ニ
リ重禁錮一月ニ處セラレタルモノアランニ先キ以テ懲役七年
ノ役過ゼシ日數下殘期若干アル歟ヲ知ルニ由ナキヲ以テ輕
キ後ノ重禁錮ヲ先キニ執行スルモ實際不得止ニ付差支無之

哉

内訓

第一條被告人ノ申立ル所ニ從ヒ前判ノ殘期ヲ執行シ速ニ原
裁判所ヘ照會スヘシ

○愛知縣 十八年八月三日何
全年九月十日指令

本年第貳號ヲ以テ輕罪ニ係ル控訴ハ爲ヌテ得ヘキ旨公布相
成候處玆ニ甲地ニ控訴裁判所ノ設ケアリ乙地監獄ニ於テ懲
役十年服役囚ニシテ輕罪ヲ犯シ其判決ニ對シ不服控訴ヲ爲
シ甲地ノ監倉ニ拘禁シ控訴廳ニ於テ重禁錮一月ニ處セラレ
タリ右ハ刑法第九十五條ニ囚リ先ツ其重キ刑ヨリ執行スヘ
キモノニ付該犯人ハ乙地監獄ニ送致シ前判ノ殘期及ヒ後刑
トモ執行スヘキ儀ト心得可然哉

指令

第一項伺之通

第九款

第七章 數罪俱發

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從テ處斷ス
重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重シトナシ刑期ノ等シキ者ハ定役アル者ヲ以テ重ト爲ス

○若松始審判事 十四年十二月廿二日請訓
全年十二月九日内訓

刑法第百條末項ニ單ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀重キモノニ從フトハ重禁錮ト重禁錮ト共ニ發シ輕禁錮ト輕禁錮ト共ニ發シ罰金ト罰金ト共ニ發シタル場合ヲ示シタルモノニシテ禁錮ト罰金ト俱發シタル時ハ縱ヒ禁錮ハ十一日ニシテ罰金ハ

五百圓ナルモ無論禁錮ニ從ヒ處分スル儀ト心得可然哉
又ハ如斯場合ニ於テ裁判官ノ判定ニ任セ其禁錮罰金何レニ從ヒ處分スルモ不苦候哉

内訓

刑法第百條末項ノ儀ニ付請訓ノ趣ハ後段見込ノ通

(理由該條末項ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ストアレハ禁錮ト罰金ト俱發スル時ニ當リ裁判官ニ於テ罰金ニ該ルヘキ者禁錮ニ該ルヘキ者ニ比スレハ其情狀重キ者ト思料スルハ固ヨリ罰金ノ刑ニ處スヘキ者トス
○宇和島始審檢事 十五年一月廿四日同
全年二月十五日指令

第三條明治十四年第八十一號布告相成候ニ付テハ舊法ニ於テ竊盜ニ該ル罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ竊盜ノ正條ヘ比較シ其輕罪ヲ定ムル勿論ナリト雖モ若シ舊法ニ於テ數罪俱發新

舊ノ法律皆正條アルルハ其數罪中一ノ重キ刑ヲ定メ新法ニ於テ其數罪ノ中一ノ重キ刑ヲ定メ双方ノ重キ者ヲ比較スル儀ニ候哉
果シテ然ルルハ舊法ノ中竊盜贓金多クシテ某刑重ク刑法ニ於テ六毆打ノ罪數罪ノ中ニテ最モ重キルハ罪名ニ拘ハラス其刑名ヲ比較シテ處斷スル儀ニ候哉

指令

第三條同ノ通

○福島始審檢事

十五年二月六日請訓
全年二月廿六日内訓

爰ニ金一圓ヲ竊ニ盜ミタル犯者アルニ付刑法第三百六十六條及ヒ第三百七十六條ニ照シ重禁錮二月監視六月ノ處斷相成タリ其裁判確定ノ後同人餘ニ別所ニ於テ金千圓竊ニ盜ミタル罪發覺ス其情重キニ依リ同條ニ照シ重禁錮四年監視ニ

年ニ付スルテ相當ニ認メ該犯ハ已ニ同刑同條ニ依リ所斷ヲ經タルモノナレバ刑法第百三條一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ云々等シキモノニ付キ更ニ論スルヲ經サルモノナル哉

又ハ同條ニ見ユル重シトシテ更ニ論シ前發ノ例ヲ以テシ後發ノ刑ニ通算スルコト得ルモ該犯ハ前發ノ罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經タルモノナレバ刑法第百三條一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經タルモノナルニ付キ更ニ論スルヲ經サルモノナル哉

○檢事代理福井縣警部

十五年七月十二日
全年八月十七日指令

爰ニ竊盜犯アリ審理ヲ遂クルニ該犯ノ所爲タル新法實施前後ニアリ則チ新法實施前ノ犯罪タル人ノ所有物ヲ竊取シ得ル所ノ贓金一圓亦新法實施後ノ犯罪タル全ク人ノ所有物ニ

窃盜セシ犯罪タリ依テ之ヲ法律ニ照スニ新法實施前ノ所爲
 ハ舊法ニ照シ懲役五十日之ヲ新法ニ照セハ二月以上四年以
 下ノ重禁錮ナルヲ以テ舊法ヲ輕シトス亦新法實施後ノ犯罪
 タル則二月以上四年以下六月以上二年以下監視ニ相當セリ
 右犯罪タル全罪ナルモ新法實施前後ニ在ルヲ以テ之ヲ法律
 ニ照セハ自ラ二罪ノ如クナリ然レモ其實全罪ナルヲ以テ單
 ニ新法ニ依リ處斷スヘキ乎將タ全罪ト雖モ照ス處ノ法律上
 ニ刑ナルヲ以テ假ヒ二罪ト看做シ新法實施前後ノ罪ヲ分チ
 數罪俱發條ニ照シ處斷スヘキ哉

指令

二罪俱發例ニ依ルヘキ者トス
 (理田右二罪トモニ新法實施前ニ係ルハ節次合算シテ一罪
 トナシ處分スヘキモ所犯新法實施前後ニ係ルヲ以テ今日

之ヲ處分スルハ二罪俱發例ニ囚ルノ外手段ナクト考量候

○茨城縣

十六年二月三日請訓
 全年全月十二日内訓

刑法第百條ニ重罪輕罪ヲ犯シ未タ判決ヲ經ス二罪以上俱ニ
 發シタル時ハ一ノ重ニ從テ處斷ストアリ其二罪以上俱發ス
 ルトキハ例ヘハ窃盜犯人アリ某月某日甲兵衛方ニテ金錢ヲ
 窃取シ歸途乙丙宅ニテ品物ヲ窃取スル如キ窃盜數次ノ犯罪
 ナモ二罪以上俱ニ發スルモノトナス乎前項ノ如キ窃盜數次
 ノ犯罪ナモ二罪以上俱發スルモノトナス時ハ違警罪犯人ニ
 シテ例ハ甲所ニ於テ酩酊シ路上ニ喧噪シ又乙所ニ至テ路上
 ニ喧噪シタルモノ、如キモ二罪以上俱ニ發スルモノトシ刑
 法第百一條ニ依リ各自ニ其罪ヲ科スル乎

内訓

請訓ノ趣第一項ハ見解ノ通第二項繼續ノ情狀アル時ハ刑法

第一百一條ニ依ルノ限リニアラス此旨内訓及候也

○秋田始審判事

十六年三月一日伺
全年全月五日指令電報

曾テ國事犯ノ見込ニテ上申セシ柴田淺五部外十八名ノ内小松捨次郎保釋中窃盜罪ヲ犯セリ右ハ前ノ犯罪ニ拘ハラス處斷スヘキ哉將審理ノ擬律案ヲ以テ伺ヒ可然哉

指令

國事犯石渡運助以下小松捨次郎ニ及ラ處分ノ指令ハ去月二十六日差出タリ小松捨次郎ノ窃盜罪ハ先度ノ罪ト數罪俱發例ニ照シ處分ス可シ別段擬律案ヲ以テ伺出ルニ及ハス

○前橋輕罪裁判所判事

十六年二月二十二日請訓
全年三月六日内訓

第四條欠席裁判ヲ受ケタル被告人其裁判確定セサル中亦罪ヲ犯シタル場合ハ刑法第九十一條第九十二條ニ依ラス相當ノ刑ヲ言淺ス可キヤ又ハ刑法第一百二條ニ依リ其罪ヲ論セザ

ル哉

内訓

前段見解ノ通明治十五年本省第六六八一號内訓ニ準シ處分スヘシ但欠席裁判ニ對スル故障ヲ受理シ同時ニ裁判ス可キ時ハ數罪俱發例ニ依ル

第一百一條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス
若シ重罪ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ

○滋賀縣

十五年五月三十一日伺
全年六月十三日指令

刑法第一百一條ニ違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ストアルハ其性質ヲ異ニシタル罪(例ヘハ規則ヲ遵守セスシテ火藥ヲ市火ヲ製造)ヲ二罪以上犯シ俱ニ發シタルトキ各其刑ヲ科スル義ニシテ其性質ヲ異ニセス同一ノ罪(例ヘハ日時場所ヲ異ニシテ「被害人」ハ其サル者ノ類又ハ日時場所ヲ異ニシテ渡船賃ヲ拂フヘキ場所ニテ其定價ヲ出サス通行スルノ類)ヲ數度相犯シ俱ニ發シタル場

合ニ於テハ第一百一條ノ限リニ無之義ト相心得可然哉
指令

伺ノ趣同一ノ罪俱ニ發スル場合ト雖モ刑法第一百一條ニ依ル
ヘキ義ト心得ヘシ

第二百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕
ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ
前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ
該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ
後發ノ刑ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱
ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑
ヲ通算セス

○松江裁判所檢事

十四年十二月廿八日伺
十五年一月廿四日指令

第五條 第二百二條後項若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサ
ル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ノ重キ
ニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發
シタル者ハ先ツ本條前項ノ例ニ照シ後罪ノ罪ノ重キ部分

(前發ノ罪ト後發ノ罪トヲ比較シ后
發ノ罪前發ノ罪ヨリ重キ部分)ト再犯ノ罪トヲ比較シ其一ノ重キニ

從テ處斷シ前發ノ刑ヲ通算セサル者ト解スルキヤ
(意見本項ノ意義ヲ解スルコト甚ダ難シ行文ニ附テ解スル時
ハ後發ノ罪ト再犯ノ罪トヲ直ニ比較スル者ノ如シ果シテ
然ラハ左ノ如キ不權衡ヲ生ス可シ例之ハ有期徒刑ニ該ル
可キ重罪ヲ二次犯シ一罪已ニ發シテ十五年ノ有期徒刑ニ
處セラレ九年十一月ヲ經過シテ再ヒ輕懲役ニ該ルヘキ重
罪ヲ犯シ其輕懲役ノ罪ノ發シタルト同時ニ前キニ發セサ

リシ有期徒刑ノ罪發シタル時ハ再犯ノ輕懲役ノ罪ト前キニ發セサリシ有期徒刑ノ罪トヲ比較シ一ノ重キ有期徒刑ニ處セサルヲ得ス若シ如斯クナレハ前キニ發セサリシ有期徒刑カ前キニ發シタル他ノ有期徒刑ト共ニ發シタル時ハ本條前項ノ例ニ照シ各等シキヲ以テ止ターノ有期徒刑ニ處セラレ再犯セハ其罪即輕懲役ニ一等ヲ加ヘラルハニ至ル可キヲ後發ノ罪ト再犯ノ罪トヲ直ニ比較スルカ故ニ再ヒ有期徒刑ニ處セラルハナリ茲ヲ以テ前項ノ意義ト甚タ同シカラスシテ被告人ノ不幸トナリ又ハ他ノ場合ニ於テ被告人ノ利益ト爲リ頗ル不權衡ヲ覺フ

指令

第五條前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ前發ノ罪ニ拘ハラヌ後發ノ罪ト再犯ノ罪ト

ヲ比較シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス

○岡崎始審檢事

十五年一月廿五日 日附問 回答

第五條刑法第百二條前後ノ罪輕重ヲ論スルハ各本條ニ記載スル刑期ニ依リ之ヲ論シ例セハ(前罪ハ三月以上三年以下 后罪ハ四月以上四年以下)ニ該ル者ナル時ハ後發ノ罪ヲ重シトスルモノナルヤ果シテ然ラハ前後ノ刑ヲ通算スルニ至リテハ之ニ反シ實地言渡夫受ケタル例ハハ前罪ハ三月以上三年以下ノ範圍内ニシテ四月重禁錮ノ刑ニ處シタルモノ已ニ三月ヲ役過シタル際後罪發シ四月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ更ニ之ヲ五月重禁錮ノ刑ニ處スルモノトセンニ役過シ殘ル前發ノ刑一月ヲ以テ後發ノ刑五月ニ通算シ併セテ六月ノ重禁錮ヲ言度スモノナルヤ

答 回答

第五條輕罪ハ刑法第百條第三項ニ依リ所犯情狀ノ輕重ヲ以

テ其輕重ヲ判定ス但引例ノ場合ニ於テ後發ノ罪ヲ重トシ判定スルルノ通算方ハ後發ノ刑五月ヨリ已ニ經過シタル前發ノ刑三月ヲ差引クモノトス

(理由)通算ノ方法ハ前發ノ罪ハ禁錮四月ニ處セラレ後發ノ罪ハ禁錮五月ニ該ルルハ前刑四月ト後刑五月トヲ通算シ後刑五月ヨリ前決ノ刑四月ヲ扣除スレハ剩ル所一月アリ因テ前刑滿期ノ後剩ル一月ヲ科スヘク然ルニ該犯人ハ前刑役過スル三月ニシテ服セサル一月ナルニ付未タ役セサル一月ト通算シテ剩ル所ノ一月ヲ并テ禁錮二月ニ服セシムヘキモノトス

○安濃津始審判事 十四年十二月廿八日請訓
十五年一月三十一日内訓

第一條刑法第一百一條第三項ニ刑罪ノ輕ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ處斷ストアリ又同第百二條第一項ニ一罪前ニ發

シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ云々其重キ者ハ更ニ之ヲ論ストアリ例令ハ第三百六十六條ノ罪ヲ犯シ已ニ二月ノ重禁錮ニ處セラレタル者包藏ノ同罪發覺シ四年ノ重禁錮ニ處ス可キモノト見込ムルハ前ノ二月ヲ扣除シ剩ル三年ト十月ノ重禁錮ヲ言渡ス可キ乎又ハ共ニ同一ノ範圍内ニ在ルヲ以テ之ヲ等シキモノトナス不論ニ措ク可キ乎又重禁錮ノ刑期短キモノト輕禁錮ノ刑期長キモノト併發スルルハ其刑期ノ長短ト定役ノ有無トニ拘ハラズ只情法重キモノト見込ム者ヲ以テ重トナス可キ乎

内訓

第一段第三段共見込ノ通但第一段引例ノ場合ニ於テ後發ノ罪其犯情重キルハ重禁錮四年ヲ言渡シ其四年ヨリ前決ノ二月ヲ扣除スルモノトス

(理由)重罪ノ刑ハ期ノ長キモノヲ以テ重シトスルニヨリ例
 へハ輕懲役ノ如キモ同一ノ範圍内ノ罪ヲ數箇犯スト雖
 是皆同罪ナレハ後發ノ罪ヲ論セサルモ輕罪ハ刑法第百一
 條第三項ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キ者ニ從テ所斷
 ストアルニ因リ前發ノ罪重禁錮ニ處セラレ余罪又重禁錮
 ニ該リ其刑期同一ノ範圍内ニアルニ拘ハラヌ又重禁錮ト
 輕禁錮ト俱ニ發シタルハ其刑期ノ長短定役有無ヲ問ハ
 ス總テ其情狀ノ重キ者ニ從テ處斷セサルヲ得ル
 第二條刑法第百二條第二項ニ若シ前發ノ罪ヲ判決スル時云
 ヲトアリ右ニ依レハ已ニ輕懲役ノ處斷ヲ經役過シタル者再
 ヒ禁錮十四日(再犯一等ヲ加フ)ニ該ル罪ヲ犯シ之ト俱ニ包藏ノ輕懲役
 罪發シタルハ一ノ重キニ從ヒ更ニ輕懲役ニ處ス可キカ如
 シ若シ再犯ノ罪ナキハ同條第一項ニ依リ包藏ノ輕懲役ハ

之ヲ不論ニ置ク可キモノナルヲ只再犯ノ罪アルカ爲メニ復
 ヒ輕懲役ニ處セサルヲ得ス數罪俱發一ノ重キニ從フ原則ニ
 背馳スルニ似タリ如何

内訓

前發ノ罪輕懲役ニ處セラレ既ニ其刑期ヲ經過シタル後ト雖
 亦仍ホ刑法第百二條第二項ニ據リ處分スヘシ

○滋賀縣 十五年一月十七日
 全年二月七日指令

第七條第百二條一罪前ニ發シ既ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ
 其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論
 シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ストアリ例ハ重罪ノ刑ニ
 シテ前ニ輕禁獄六年ニ處セラレ後輕禁獄八年ニ該ル罪發覺
 スルモ刑ノ種類等シケレハ輕禁獄八年ヲ以テ重トシ更ニ之
 ヲ論スルヲ得サルカ如シト雖亦輕罪ノ刑ニ該ル時ハ例ハ

先ニ輕禁錮一月ニ處セラレ後犯情狀重クシテ輕禁錮五年ニ該ル罪發覺スル時ハ刑ノ種類等シト雖所犯情狀重ク且刑期ノ長キハ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算スヘキヤ如何指令

第七條何之通

○新潟始審裁判所新發田支廳詰檢事 十四年九月七日請訓 十五年五月二日内訓

第十四條刑法第百二條ニ若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セスト有之右ハ例ヘハ其所爲有期徒刑ニ該ルヘキ罪ヲ兩度犯セル者其處斷ヲ受クル時ニ際シ一罪ヲ包藏シ遂ニ一ノ有期徒刑ニ該ル罪ヲ以テ刑名宣告ヲ受ケ島地ニ在テ儻ガニ同囚ヲ毆打スルノ所業アリ此時ニ方テ前ニ包藏セシ有期徒刑ニ該レル一罪發覺シタル場合ニ於テ

ハ再犯即毆打ノ罪ト比較シ有期徒刑ノ罪重キヲ以テ之ヲ科スル義ト相心得可然哉然ラハ前ニ處刑ヲ受ケタル有期徒刑ノ刑期ト通計スレハ三十年ヨリ二十四年ニ至ルノ期限ヲ以テ罰スヘキコニ相成候義ト相心得可然哉

内訓

第十四條見解ノ通

(理由)有期徒刑ニ該ル可キ罪ヲ兩度犯セル者其一罪ヲ包藏シ遂ニ一ノ有期徒刑ニ處セラレ後再ヒ毆打等ノ輕罪ヲ犯シ其處斷ヲ受クルノ際前ニ包藏セシ有期徒刑ニ該ル可キノ罪發覺ス此場合ニ於テ刑法第百二條若シ前發ノ罪ヲ所決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタルモノハ其再犯ト比較シ一ノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セストアルニ依リ乃チ有期徒刑ニ處分セサヘカラス

○大津始審廳檢事

十五年七月八日伺
全年同月廿五日指令

先キニ罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處セラレシ者不服ニシテ上告致シ候ニ付責付ヲ許シ有之候處其上告事件判決未濟中再ヒ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ刑罪ヲ犯シ已ニ公訴ニ係ル者アリ右ハ刑法第百條末項ニ依リ情狀最重キ者ニ從ヒ處斷スルハ勿論ナレモ治罪法第三十八條ニ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタル片ハ附帶ノ犯罪ニ非スト雖モ上等ノ裁判所併セテ之ヲ管轄スト相見ヘ被告後犯ノ事件ハ大審院ニ送致ス可キ者ナルカ如シ然レモ大審院ハ治罪法第七十七條以下ノ事件ヲ管轄セス此場合ニ於テハ後犯ノ裁判ヲ停止シ上告ノ判決ヲ待テ刑法第百二條第一項ノ如ク處分致ス可キ者ニ有之候哉然ラハ後犯ノ者ニ付他ニ多數ノ共犯人有之時ニ於テハ現ニ上告中ノ者ヲ差置キ餘ノ黨夥ハ停止ヲ用ヒス直ニ裁判致

シ候トモ不苦候哉

指令

何之趣大審院ノ判決ヲ待タヌ處分スルヲ得

○松本始審廳

十五年七月十九日伺
全年八月十五日指令

已決囚アリ明治十四年中逃走シ明治十五年ニ至リ逮捕ニ就ク之レカ裁判不當ナリトテ檢事ニ於テ大審院ニ上告中又拘留場ヲ逃走シ外ニ在テ兇器ヲ携帯シ竊盜ノ罪ヲ犯シ豫審中大審院ニ於テ棒鎖一日懲役八十日ト前罪判決相成タリ而テ後犯ノ罪ハ前罪上告中ニアルヲ以テ未決囚徒ノ逃走セシモノトセザルヲ得ス依テ如此犯罪ハ刑法第百四十四條ニ照シ大審院裁判ハ申渡ヲナサスシテ後犯裁判ノ節其重キニ從テ處斷スヘキモノニ候哉上告中又犯罪アルモ大審院ニ於テ前罪裁判ハ先ツ之ヲ言渡シ後犯ノ裁判ヲナスニ當リ數罪俱發

ノ例ニ照シ處分致可然哉

指令

伺書未段ノ通處分ス可キ者トス

(理由)上告中ハ未タ刑ノ確定セサル者ナルヲ以テ全一ノ裁判所ニテ裁判スル時ハ後犯ノ刑ト共ニ刑法第百條ニ依リ處分スヘキヲ當然ナリト雖モ已ニ大審院ノ判決アリ且未タ判決ナクトモ大審院ト地方裁判所トハ別ニ各裁判ス可キ者ナルヲ以テ大審院ノ判決ヲ待テ而後刑法第百二條ニ從ヒ處分ス可キ義ト考量ス

○甲府始審廳判事

十五年九月廿九日請訓
全年十月五日內訓電報

刑法第百二條ニ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス云々トアリ其輕クトア

ルハ前發ノ刑禁錮ナルニ後發ノ刑罰金ニ該ル如キ時ニシテ等シキトアルハ前後刑重禁錮ニ該ル者ナレハ右本條ニ記載シアル刑期ノ長短及ヒ罪名ノ異ナルニモ拘ハラス等シキモノトシ其重キトアルハ前發ノ刑罰金十圓ナルニ後發ノ刑期禁錮一月ニ該ル如キ者ニ候哉將タ其輕重トハ所犯ノ情狀ニヨリ現ニ處分スル所ノ刑期ノ長短ニヨリ假令ハ二次發シテ犯シタル者一次前ニ發シ已ニ重禁錮ニ月ヲ附加スルノ判決ヲ經タル後發覺シル一次ノ盜罪ハ其情狀最モ重キモノニテ其重禁錮四年ニ處シ二年ノ監視ヲ附加ル相當ト見認ムルモノアルハ其重キモノトシ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ通算シ餘ル三年十月ノ重禁錮ニ處シ一年六ヶ月ノ監視ヲ附加シ然ル可キ哉

内訓

刑法第二百二條請訓輕罪ノ刑ハ禁錮ト罰金トヲ間ハス又刑期ノ長短金額ノ多寡ヲ論セス總テ所犯情狀重キ者ヲ重シトス

○松江始審廳判事 十五年八月五日伺
全年九月十五日指令

一罪前ニ發シ判決セシ事件檢察官若クハ被告人ヨリ上告シ其判決ナキ内餘罪發覺シタル場合ニ於テハ前判決ハ確定セザルヲ以テ前後ノ刑ヲ比較スルニ由ナキカ如シト雖モ刑法第二百二條ニ於テハ前裁判ノ確定ヲ俟テ後發罪ヲ處斷スルノ明文ナキヲ以テ未確定ナル前判決ノ刑ト比較シ直ニ處斷シテ可然乎又ハ上告事件ノ判決ヲ俟テ後處斷ス可キ乎

指令

前段伺ノ通

○松江始審廳檢事 十五年十月廿四日伺
全年十一月十五日指令

本年八月八日一罪前ニ發シ判決セシ事件上告中餘罪發覺シ

タル場合ニ於テハ刑法第二百二條ニ依リ確定セサル前判決ノ刑ト比較處斷スヘキ乎又ハ云々ト相伺候處前犯伺ノ通ト御指令有之然ルニ若シ前發罪上告中ノ罪大審院ノ判決ニ因リテ無罪ノ言渡ヲ受クル如キ場合ニ遭遇セハ已ニ不論罪律言渡ヲ爲シタル後發罪即チ輕キ罪ハ之ヲ科スルニ路ナキニ至ルヘシ然ルニ二罪俱發律ノ精神タル數罪各別ニ科セサルノ原理ニ據ルモノニシテ素ヨリ輕キモノヲ論セサレモ亦之ヲ全免スルノ趣旨ニアラス故ニ輕キ罪ノ執行ハ自ラ重キ罪ノ執行ニ讓ルノ意旨ナルヘシ然ラハ前段ニ陳述スルガ如ク嘗テ比較ノ對敵トシタル前發罪カ大審院ノ判決ニ依リ無罪トナルモ後發宣告ノ確定シタル上ハ別ニ其刑ノ宣告ヲ用キスシテ輕キ罪ノ執行ヲ爲シ得ヘキ哉

指令

伺ノ趣後發罪ノ刑ノ執行ヲ爲スヘシ

○仙臺始審廳檢事 十五年十一月九日同
全年全月廿五日指令

爰ニ某甲某ニ於テ懲役終身服役中、本年二月中同囚六名ト申合セ
逃走ノ末、某甲某ハ同年八月中他管内ニテ捕獲當衙へ護送ニ相
成リタルヲ以テ別罪之レナキモノト認メ刑法第四百二十二條
ニ依リ三ヶ月ノ重禁錮ニ處シタリ然ル處右某甲某等逃走ノ途
中他管ニ於テ刑法第三百七十九條ニ掲グル所ノ罪ヲ犯シ其
共犯内以テ二名捕ニ就キ證據充分ナルヲ以テ某重罪裁判所ニ
於テ二名ハ對審、某甲某ハ欠席裁判ニテ徒刑十三年ノ刑ヲ受ケ
茲ニ某甲某ハ先キニ當衙ニ於テ處刑ヲ受ケタルト相分リタル
ヲ以テ其裁判所檢事ヨリ其執行ノ儀屬托相成タルト雖、昨即
所數罪俱發ニ係ルヲ以テ先キニ宣告ニ相成タル重禁錮ノ刑
ハ取消サ、ルヲ得ス其處分上ニ於テハ大審院へ請求スルキ

モノナル乎又ハ當衙ニテ其宣告ニ及ヒタル上執行致シ可然
哉明文無之ニ付疑義ニ涉リ候條仍テ内訓ヲ仰ク
指令

伺之趣刑法第九十五條ニ依リ先ッ其重キ懲役終身ノ刑ヲ執
行ス可シ但重禁錮ノ刑ハ數罪俱發例ニ依リ取消ニ及ハス當
然其執行ヲ爲サ、ル儀ト心得ヘシ

○司法省丙號 十五年十二月九日大審院裁判所
警視廳(府縣東京府ヲ除ク)

刑事上告中餘罪發覺シ又ハ更ニ罪ヲ犯シタルハ大審院ハ
判決ヲ待タス直チニ相當ノ裁判ヲ爲シ上告ニ係ル事件ハ刑
期ニ拘ハラス其執行ヲ爲スヘシ若シ大審院ニ於テ判決アリ
タル後其刑重キハ執行官ニ於テ刑法第二百二條ニ從ヒ既ニ
役過セシ日數ヲ扣除シ餘ル刑期ヲ執行スルキ儀ト心得ヘシ
此旨及内訓候也

但本文ニ抵觸スル従前ノ指令内訓ハ取消候事

第十款

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及獄司刑場ニ立會獄司ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後獄丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其時限ハ午前十時前トス

○神奈川県

十八年十月三日
全年十月二十八日指令

死刑執行ノ者衣服ノ儀ハ監獄則第三十三條ニ依リ考案ヲ下スニ犯人自服ノ儘執行シ可然モノト相考居リ候處昨十七年十二月山梨縣ヨリ伺ニ既ニ執行ノ命令アリタルハ獄衣ヲ着セ執行可致儀ニ候哉伺ノ通ト御指令有之就テハ司法卿ヨ

リ執行ノ命令アリタルハ直チニ赭色ノ獄衣ヲ着セ已決監ニ移スヘキ儀ニ候哉又ハ執行ノ日迄ハ未決監ニ置キ其當日ニ至リ獄衣ヲ着セ執行ス可キ儀ニ可有之哉

指令

伺之趣死刑執行迄便宜未決監ニ拘置スルモ苦シガラス衣服ハ獄衣ヲ着セシムルニ及ハサル儀ト可心得事

但山梨縣ヘノ指令ハ取消シ候儀ト可心得事

○長野縣

十四年十二月廿八日
十五年二月三日電報内務省合議

第一條本則中記載アル處ノ獄司獄丁ハ典獄押丁ト相心得可然哉

指令

昨年第六十七號布告刑法附則ノ件ハ第一條伺ノ通

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル

者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

○關山縣

十六年十月十一日伺
全年十月廿七日指令

死刑ヲ行フ時ハ執行ニ關スル官吏ノ外刑場ニ入ルヲ許サ、ルハ刑法附則第二條ニヨリ判然致候得共其但書中單ニ立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限リニ非ストノミ有之其許可スヘキ者ハ監獄則第五條一二三項ノ諸官並司獄官吏ニ限リ入場ヲ許可スヘキヤ將タ官民ノ如何ヲ問ハズ死刑執行ノ傍觀ヲ願出タル所ハ刑場ノ障碍トナラサル已上立會官吏ニ於テ入場ヲ許可スヘキヤ若シ果シテ後段ノ如クセハ死刑ハ陰觀ヲ主トスル法意ニ背觸スルカ如クニ被存解釋上聊カ疑義ヲ生シ候ニ付爲念豫テ相伺候

官吏ニシテ將來職務上參觀ト爲メニ入場者ハ外場入場ヲ許サズ但本文ノ官吏ト雖モ一己ノ資格ヲ以テ被刑者ノ原告人トアリシ者ハ入場相成ラス

第三條 死刑ノ執行ヲ畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ムヘシ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

仁孝天皇祭

神武天皇祭

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

○平始審廳檢事

十五年二月一日何
全年三月九日指令

第五條刑法第四條元始祭以下ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ズト
之アリ右ハ全ク死刑ノ執行ヲ禁セラレタル迄ニテ他ノ刑ノ
言渡ヲ行フニハ敢テ差支無之義ニ有之候哉若シ然ルハ明

治六年三月十三日日本省第三十二號除刑罰拷問ノ日更定布達
ハ自然廢止セラレタル義ニ有之候哉

指令

第五條伺ノ通

○松江始審廳檢事

十五年四月十三日何
全年五月十日指令

第十四條刑法附則第四條ニ記載シタル中何レヲ大祀ト云ヒ
何レヲ令節若クハ國祭ト云フカ

指令

大祀トハ大嘗會ヲ云ヒ刑法附則第四條中令節トハ紀元節天
長節國祭トハ元始祭神嘗祭新嘗祭等ヲ云フ

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師
及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察
官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ

更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

○於五所川原治安裁判所 弘前縣裁判所 十六年三月十四日請訓 十六年三月十四日請訓 全年全月内訓

刑法附則中第五條第十八條第二十五條ノ如キ日限ヲ計算ス

ルハ治罪法第十八條ヲ適用スル義ニ可有之哉果シテ然ラハ旅券ノ如キハ其付與ヲシタル日ヲ算入セザル義ニ可有之目下差掛リタル事件有之候ニ付至急何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

内訓 刑法附則中日限計算之義ニ付請訓之趣キハ見解ノ通但第廿

八條ハ刑法第四十九條第四項ニ從フ可シ

○群馬縣 十六年十二月四日何 全年十二月廿四日指令

玆ニ死刑ヲ執行スヘキ者當時病弱腸室扶私或ハ 腸膜炎ノ類ニ罹リ更ニ人事ヲ省ミサルカ如キ受刑者アラン此際直ニ執行ヲ爲ハ却テ刑罰ノ本旨ニ悖ヒ少シク妥當ナラサルヲ覺テ右ノ場合ニ

於テハ其執行ヲ停止シ假令痊愈ニ至ラサルモ幾分ノ本復ヲ待テ執行スル儀ト相心得可然哉法章上明文無之ニ付相伺候也

指令

伺ノ趣死刑ノ執行ヲ受クヘキ者疾病ニ罹リ人事ヲ辨セザル時檢察官ニ於テ其執行ヲ爲スヘカラスト認メタルトキハ伺之通

但執行ヲ爲スニ差支ナキニ至リ之ヲ執行スルモ亦タ檢察官ノ指揮ニ依ル儀ト心得ベシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者アル時ハ獄司之ヲ許可シ下付スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテハ獄司ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ族籍氏名年齢職業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ公告ス可シ
刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
犯罪ノ地
犯人住居ノ地

犯人住居ノ地

○司法省丙第三號

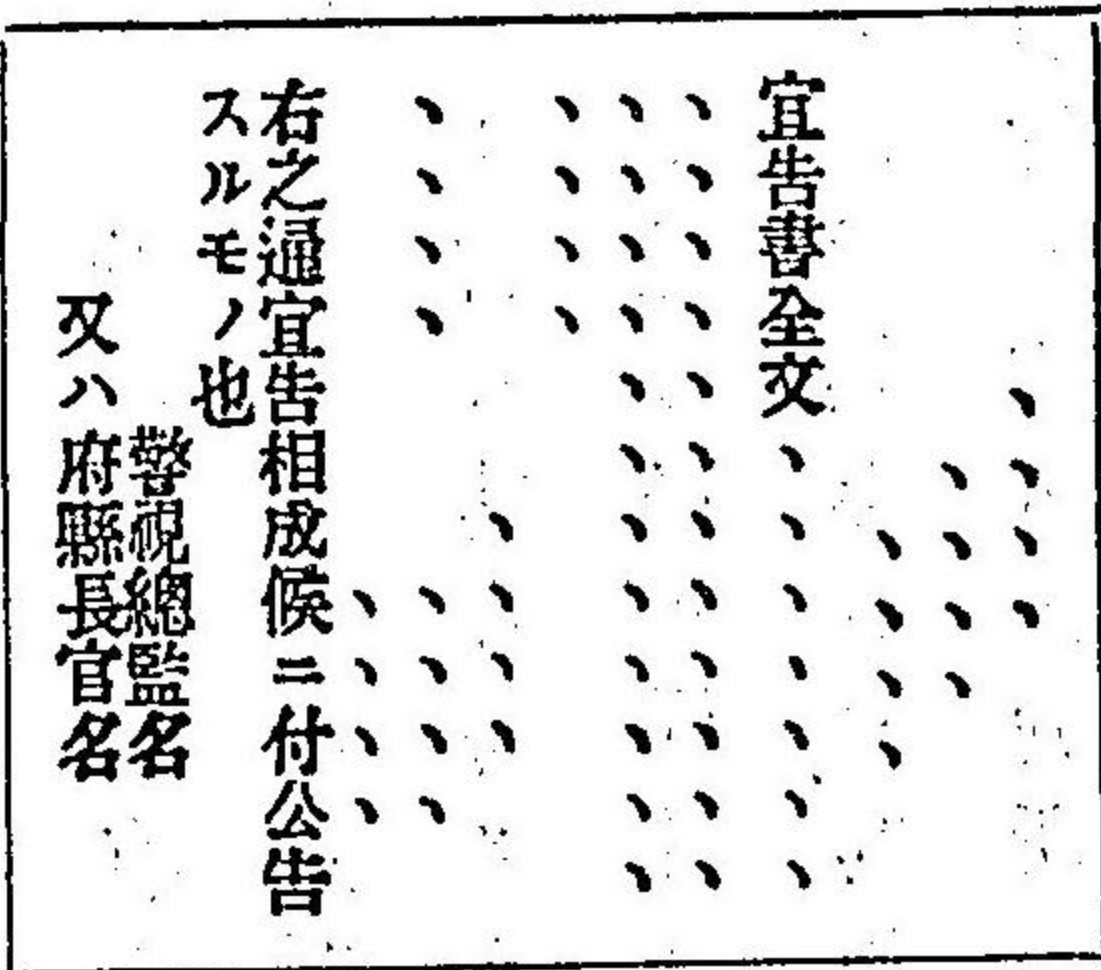
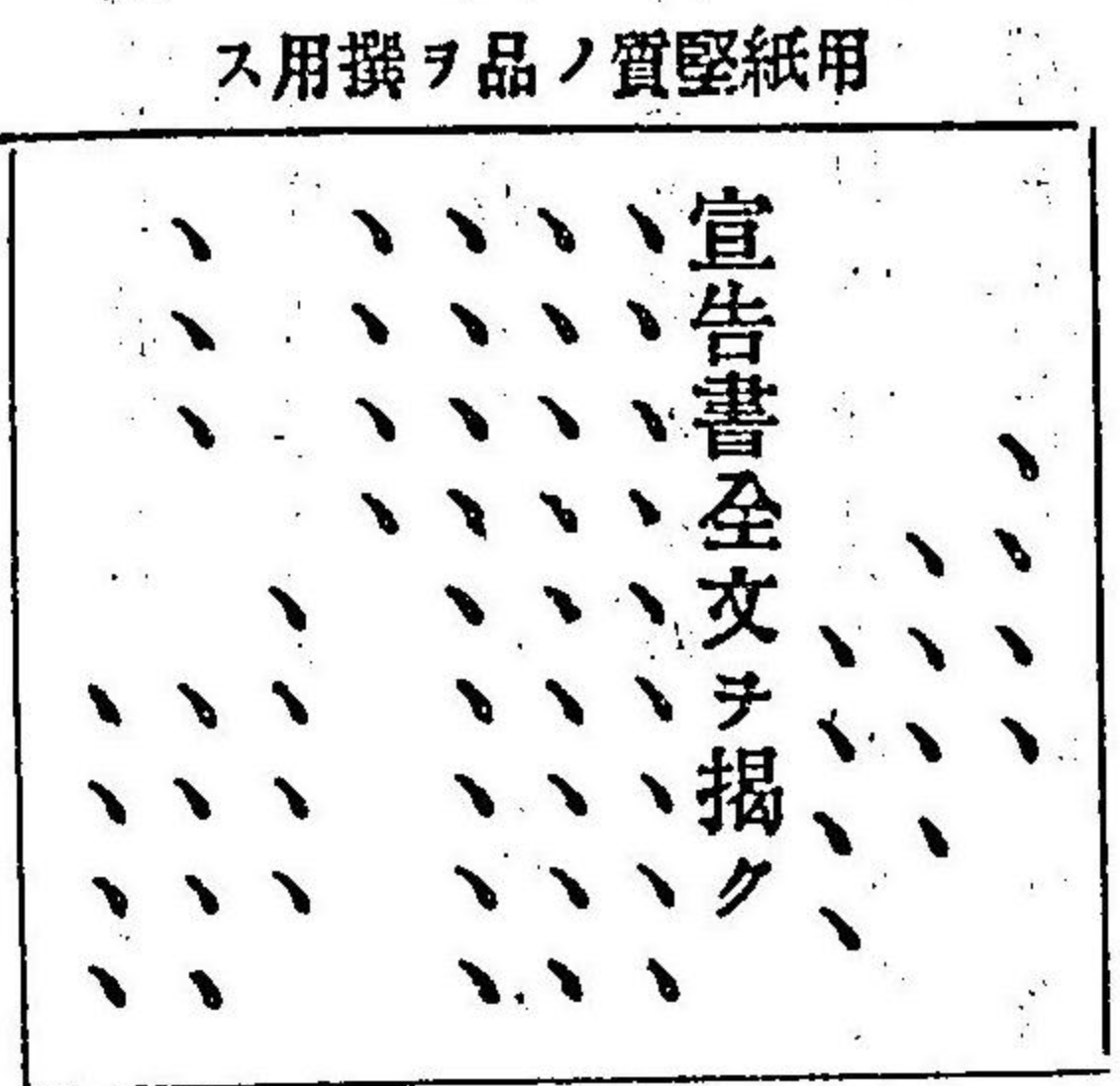
裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
明治十五年二月六日

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年五月當省第九號ヲ以テ相達置候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年二月第六十七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相達候事

一死刑ノ宣告アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ雛形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地並犯人住居ノ地方(東京ハ警視廳)府縣

ハ速ニ送達スノシ
一警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ヲ謄本送達アレハ左ノ雛形ニ據リ犯罪ノ地並犯人住居ノ地何レモ三日間通衢ニ榜示公告スヘシ

死刑宣告榜示公告雛形
重罪裁判所門前榜示 犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示



○大坂控訴廳判事

十五年二月十六日請訓
全年三月四日内訓

刑法附則第八條ニ死刑ヲ執行シタル時ハ云々ト有之又本年本省丙第三號御達ニハ死刑ノ宣告アリタルハ重罪裁判所書記ニ於テ云々公告案ヲ製シトアリ右ハ其宣告アリタル時公告案ヲ製スト雖此之ヲ揭示シ及ヒ地方廳ヘ送達スルハ裁判確定則執行畢リタル時ノ取計ト相考候然レバ其以前重罪裁判所ヲ閉廳スル時ハ該處分ハ執行ヲ爲ス裁判所書記局ニ於テ負擔ス可キ筋ト心得可然哉

指令

死刑ノ者公告ノ儀ニ付請訓ノ趣ハ意見ノ通

○岡崎始審廳判事

十五年八月五日請訓
全年九月十九日内訓

第一條舊律ニ於テハ終身懲役ニ新刑法ニ於テハ無期徒刑該ル可キ者之アリ明治十四年ノ着手ニ係ルヲ以テ十四年第

八十二號布告ニ依リ従前ノ規則ニ從ヒ處分スル場合其揭示
榜告ハ刑法附則ヲ參照シ揭示セサル者ト心得可然哉又ハ従
前ノ手續ニ依リ終身ト雖此尙揭示スヘキ者ナル哉
第二條其死刑ニ處スル者(十四年中ノ者
手ニ係ル者)揭示ノ手續ハ本年本省丙
第三號御達ニ依ル可キ哉又ハ尙ホ明治七年本省第九號御達
ニ基ク者ナルヤ

内訓

第一條第二條共前段見込ノ通

○茨城縣

十六年九月十二日伺
全年九月十八日指令

第一條茲ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル犯人アランニ其裁判言渡
ニ對シ上告ヲ爲シ該上告棄却セラレタル後死刑執行シタル
時犯由ヲ榜示公告スルニハ原裁判言渡書ノ全文ヲ掲々(上告
ニ對スル判交ハ公告セス)明治十五年御省丙第三號御達ニ依

リ揭示方取扱可然哉

第二條死刑ノ宣告ヲ受ケタル者前條ノ如ク上告ヲ爲シ其上告ニ付キ原裁判言渡ノ幾分ヲ破毀セラレ死刑ヲ執行シタル時ハ原裁判言渡書及ヒ大審院判決書ノ全文ヲ掲ケ公告スル儀ト相心得可然哉

指令

書面伺之通

第九條 徒刑ノ囚ヲ發見スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ獄司ヨ

リ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ

第十四年十二月内閣書記官ヨリ正誤 第九條(獄司)ハ(監獄管

理)長官ノ誤其餘ノ條ハ(獄司)ハ(典獄)獄丁ハ押丁ノ誤

○司法書記官 十五年一月十九日内務省へ照會
全年一月二十七日同書記官回答

刑法附則第九條以下徒流ノ囚ヲ集治監へ發遣シ又ハ監視

付セラレタルモノニ假ニ監視ヲ免スル等其上申手續ニ付長崎縣ヨリ別紙伺面第二條ノ通り伺出候條典獄又ハ警察官ヨリ直ニ内務司法兩卿へ上申スル義ニ可有之候得共貴省ノ御異見一應承知致度云々

別紙長崎縣伺

第二條刑法附則第九條以下徒流ノ囚ヲ集治監へ發遣セントスル片又ハ監視ニ付セラレタル者悛改ノ狀アルヲ以テ假リニ監視ヲ免セントセシ片又假出獄ヲ許スヘキ者アル等ニ於テ獄司ヨリ内務卿へ上申云々又ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受クル如キノ手續ハ典獄又ハ係リ警部ヨリ直ニ上申スルノ順序ト相心得可然哉

回答

刑法附則第九條以下徒刑ノ囚ヲ集治監へ發遣シ又ハ監視ニ

付セラレタル者假ニ監視ヲ免スル等其上申手續ニ付長崎縣ヨリ貴省へ伺出第二條ノ件ニ付云々御照會相成候處同上中前段徒流ノ囚發遣セシムル節上申方ノ儀ハ客年十二月二十八日付ヲ以テ内閣書記官正誤ノ通り其他ハ貴省御異見ノ通第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十二條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ獄司之ヲ許ス可シ

第十三條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ許可ヲ受ク可シ

第十四條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免サレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許ス可シ但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ

監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ已ムコトヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルコトヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ

領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ
犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

○山田始審裁判所 十五年二月十三日質問
全年五月廿二日回答

第二條刑法附則第二十條ニ罰金科料云々犯人身死スル時ハ
徵收セス云々トアリ右ハ裁判確定ノ前ニ於テ犯人ノ死亡シ
タル時ヲ云フ乎又應禁物ノ外沒收ス可キ物件ニ付テ亦同上
ノ處分ニ可及ハ勿論ノコナルカ又其第五十三條ニ裁判費用
ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ
其相續人ヨリ之ヲ徵收ストアリ右ハ前段ニ反シ裁判確定ノ
后犯人死亡シタル時ヲ云フカ

回答

第二條刑法附則第二十條第五十三條ハ總テ裁判確定後ニ係

ル者トス

第十一款

第二章 監視

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル
爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス

○根室縣 十五年四月廿四日伺
全年七月四日内務省合議

刑法ニ依リ監視ニ付セラレタル者處分方ノ儀ニ付テハ明治
十四年^{十二}第六十七號公布刑法附則第二章第三章ノ趣モ有之
本人居住地ノ警察官吏ニ於テ其行狀ヲ監視シ且謹慎ヲ表ス
ル爲メ定限通警察所ニ出頭セシムルヘキ筈ノ處當縣管内ノ義
ハ土地廣漠加之離島ヲモ管轄致居候其警察署ヲ去ル數十百
里ニ亘リ候地方モ有之監視ニ付セラレタル者ヲシテ斯ク遠
地ヨリ出頭爲致候義ハ到底不被行義ト被存候條右等住所遠